

平成13年度通常総会 大塚博美会長を再任



平成13年度の新理事が紹介された

■会長報告
印象に残るカナダとの交流
議案審議に先立ち、大塚会長は次のように報告した。

平成十三年通常総会が五月十九日午後二時から、東京・三崎町の東京グリーンホテル水道橋で開かれた。総会には、会員百六十八人が出席し、平成十三・十四年度の役員及び評議員を選出した。会長については、評議員会の推薦を否決し、大塚博美会長を再任した。選出をめぐることは、活発な意見表明が相次いだ。このほか、①平成十二年度事業報告及び収支決算・財産目録承認の件②平成十三年度事業報告及び収支予算承認の件③平成十三年度除籍者の件について、いずれも原案どおり可決承認した。(事業報告等の詳細内容は別掲六〜十一ページ)

一、平成十二年度を振り返ると、やはりカナダ山岳会との交流が印象に残る。アルバータ峰登頂七十五周年を記念し五年にわたって練り上げた計画に沿っての登山・トレッキングだった。山頂に残されたピッケルは合体し永久保存された。報告書がまとまったことを披露したい。

一、第三回秩父宮記念山岳賞は大蔵喜福氏の十年続いたマツキンリーでの気象観測とそれに伴う若手クライマーの育成に対して授与された。まさしくクライミングと文化の調和と取れたものだった。また六十三歳という世界最高齢でチョモランマに登頂した山本俊雄氏に会長特別賞を贈った。中高年齢者の活躍のなかでも際立つものだったと思う。

一、アンケートを十年ぶりに実施した。五四%もの回答を得た。結果は機関誌「山」で紹介しているが、二



2001 年 (平成 13 年)
7 月号 (No. 674)

社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価 1 部 150 円

目次

平成13年度通常総会 大塚博美会長を再任	1
役員改選 長時間に及ぶ議論	3
平成12年度事業報告	6
収支計算書・正味財産増減計算書	7
貸借対照表・財産目録	8
監事監査報告	10
平成13年度事業計画	10
平成13年度収支予算	11
支部だより	12
秋田 山梨 越後 信濃	
東西南北	
今年の長い総会の後に	14
大山の標高が低くなった	14
深田久弥さんとの平ヶ岳	15
俳句・高尾の森	15
海外の山	16
報告	
三水会・頭陀山、太白山山行	17
92同期会・丹沢鍋割山	17
資料委・ミニテントの寄贈	18
図書紹介	18
『静岡市の山』『山書散策』	
Sanken life	19
新入会員・図書受入報告	19
会務報告	20
ルーム日誌・INFORMATION	22

▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木……………10~20時
水・金……………13~20時
第2、第4土曜日……………閉室
第1、第3、第5土曜日……………10~18時
ルーム夏期休業日……………8月11~19日

十一世紀の活動もしくは百周年事業の手がかりにしていきたい。

■事業報告・収支決算 活発だった海外との交流

この日の総会には二千六百八十六の委任状が提出された。現在会員は五千九百七十三人であり、出席者を合わせると、会員の三分の一を上回っており、総会は成立した。議事録の署名人には高原三平、藤田礼子の両会員が指名された。

平成十二年度の事業報告は西村政晃総務担当常務理事、収支決算及び財産目録は村井龍一財務担当常務理事が詳細に説明した。

【事業報告】 事業活動は活発だった。

おもなものをとりあげると、五月二十日に通常総会・支部長会議を開催した。全国支部懇談会は九月十六、十七日に東九州支部が主管し九重で行った。年次晩餐会は十二月二日に開催、会場で西暦二千年記念「山岳写真展」を開いた。第三回秩父宮記念山岳賞は大蔵喜福氏に授与された。このほか、自然保護委員会による「高尾の森づくり」がスタート、またインターネット・ホームページを更新した。海外山岳団体との交流も活発だった。カナダ・トレッキングには八十人が参加。海外登山基金による助成は、東海支部のローツェ南壁、

日本大学山岳会のサンルン峰、明治大学山岳部のガッシャーブルム峰に對して行われた。第四回会員アンケートは三千二百五十五の回答があった。百周年記念事業の準備として、

「日本山岳会百年史」、「新日本山岳誌」の編集などが着実に進められた。【収支決算等】 収支決算は、収入が八千八百八十一万円となり、予算を六百二十万円上回った。

予算外収入のうち、補助金収入の百万円は「高尾の森づくり」に対する国土緑化推進機構からの助成金。また特定収入預金取崩収入として図書出版研究基金から五百四万円を取り崩した。会費・入会金は七千二百二十七万円で収入全体の八六・三%を占めた。会費納入率は九八・二%の高率を維持した。

支出は八千七百六十二万円で、予算を八十四万円上回るにとどまった。日中交流登山が中止になったほか、アンケートやミニ水力発電の経費減で、これらの支出が予算に比べ少なかった。支出合計に対する事業費支出の割合は五四・六%だった。文部科学省からは五〇%を上回るようにといわれているが、これは達成している。これらの結果、当期収支は百十八万の黒字になった。次期繰越は前年度より五百三十六万円増えて千八百八十五万円、正味財産は四億千

二十六万円となり、はじめて四億円の大会に乗せた。

■十三年度事業計画・収支予算 百周年事業の準備進む

平成十三年度の事業計画・収支予算についても、西村常務理事、村井常務理事が詳細に説明した。

【事業計画】 自然保護委員会が四月十五日、高尾で植樹祭を実施した。二百人を超える参加者があった。全国支部懇談会は九月二十九、三十日に石川支部が主管して片山津で行われる。自然保護全国集会は十月六、七日に大台ヶ原で。年次晩餐会は十二月一日に新高輪プリンスホテルで行い、その際、二〇〇一年の会員名簿を配布する。百周年記念事業は、

「百年史」、「新日本山岳誌」の編集、白神山でのブナ林の造成など準備が着実に進んでいる。第四回秩父宮記念山岳賞は募集中である。

【収支予算】 これらに対する予算は、

収入を前期繰越を含め一億二百四十四万円とした。前年度に引き続き一億円を超える規模となった。会費・入会金収入が収入の八六・九%を占める。会員名簿を作成するので広告収入が増加する。山研使用料は三百万円が限度とみた。支出は前年度予算に比べ十三万円少ない八千六百六十五万円。会員名簿の作成で印刷製本

費が増加、前年度にアンケートを実施した関係で通信費が減少する。これらの結果、収支は四百二十六万円のマイナスとなる。

なお、平成十四年四月から銀行預金等のペイオフが実施される。常時、二億五千万円程度の預金をもっており、その預入銀行をふやしていく考えだ。財務委員会だけでなく理事会等で具体策を検討したい。

■役員改選・報告事項 秋田など三支部長代わる

活発な質疑応答のあと、これら事業報告及び収支決算・予算は原案通り可決承認され、続いて第三号議案である平成十三・十四年度役員及び評議員改選についての審議にはいった。(役員改選については別項三、五ページに)

役員改選のあとは報告事項。平成十三年度の除籍対象者は六十九人となった。会費を二年間滞納した人が対象となる。実際の除籍者は、昨年度は四十五人、前々年度は三十四人だった。これに関し、知人に声をかけて会費を納めて留まるよう勧めてほしいという要請があった。また、報告事項として平成十三年度にはいつてからの支部長の交代が紹介された。新支部長は次ぎのとおり。

秋田

佐々木民秀

宮城 千田 早苗
京都 横田 明男

これで、すべての議案審議が終了、新しく理事・評議員になった人が会場に並んで挨拶した。総会終了後は、午後六時から同所で懇親会を開いた。村木潤次郎元会長が「日本山岳会のみますの発展を祈念したい」と音頭をとって乾杯し、和やかな歓談を続けた。

■質疑応答

東京支部の設立を

山田二郎会員(三四七三) 長期計画積立金支出が予算より大幅に支出さ
れているのは、なぜか。

村井常務理事 図書出版研究基金を取り崩したためである。この基金は創立七十周年記念出版事業で得た資金を積み立てていたものだが、積立以来そのままとなっており、監事からの指摘もあって、本会計に組み入れた。

石田稔郎会員(六〇六五) 質問が三つある。まず、昨年もお願ひしたところだが、東京支部をつくっていただきたいと思っている。検討していたのか。第二に、会報「山」六七〇号の東西南北に掲載されたミニヤコンカ登攀史に関する件。六六八号に紹介された図書紹介に関してのものだが、これは内容が不適切では

ないか。第三、自然保護委員会に担当理事のほかに委員長が存在するようだ。委員長はやめにしたはずだが、どうなっているのか。

大塚会長 東京支部設立熱望の件は決して忘れていないが、いま討議し実現するのは現実的でない。六千人の会員の約半分が関東にいる。東京支部をどのようにつくっていくのか苦慮している。重要な問題である。

小倉副会長 九十周年のときに委員長制度を見直そうということになった。担当理事が責任を持って執行するのだから、委員長の経歴があまりに長いのはよくないということのほか、委員会はほぼ二十人以内がいいのではないか、また委員についても経歴の長い人は活性化のためにも新しい人に道を譲るようにできないか——といったことを含めて、委員長制度はできるだけ避けたほうがよいということにした。

ただし委員会によってはどうしても委員長を設けなければならない場合もある、という含みは残したつもりだ。

中野慶一会員(一二四七三) 収支予算は今年度予算と前年度予算とを比較されているが、これは前年度決算と比較するほうが分かりやすいのではないか。

村井常務理事 慣行でそうしている。

ご了承いただきたい。

■平成十三・十四年度理事・監事

会長 大塚 博美 再
副会長 芳賀 孝郎 新

同 長尾 悌夫 新
同 村井 龍一 再
(財務担当兼任)

理事(カッコ内は担当)
(山岳編集・百年史) 高遠 宏 再
(図書) 宮下 啓三 再
(総務) 西村 政晃 再
(総務) 高原 三平 再
(高所) 坂井 広志 再
(青年部) 松原 尚之 再
(自然保護) 河西瑛一郎 再
(海外連絡) 中村 保 新
(山研運営) 小川 武 新
(会報編集) 今村 千秋 新
(指導・遭難対策) 黒川 恵 新
(医療) 大野 秀樹 新
(集会) 朴元 鐘徳 新
(資料・フィルムビデオ) 鈴木 敬吾 新

(学生部)
監事 (科学)
評議員

鳥居 和雄 新
藤本 慶光 新
内田 博 新
古市 進 新
田邊 壽 再
山本 久子 再
平林 克敏 再
尾上 昇 再
吉永 英明 再
宇田川芳伸 再
絹川 祥夫 再
中尾 正武 新
赤羽孝一郎 新
小倉 茂暉 新
大森 薫雄 新
本田 誠也 新
宮崎 鉦一 新
岡田 光行 新
坂本 観晃 新
森 武昭 新
中井 俊一 新
竹内 哲夫 新
山本 晃弘 新
鯉坂 青青 新

平成十三年度役員改選

採決繰り返し会長再任

長時間に及ぶ白熱の議論

二時間におよぶ白熱した議論をへて、大塚博美会長の再任・続投が決

まった。総会が会長人事をめぐるこれほどまでに混乱したのは、異例

のこと。山を愛し山岳会を想う熱き心がぶつかり合った一幕だった。

■総会は最高の議決機関

通常総会は、午後二時に始まった。淡々と議事が進められたのだが、議題が役員・評議員改選の件に移ると、にわかには会場は熱くなった。大塚議長は、審議に先立ち「総会は最高の議決機関である。このことをよく理解して議論してほしい」と発言した。質疑が相次いだ。

大谷優会員(五一二二) 通常は、役員候補がはいった総会通知状が送られてくるが、こしは書いていなかった。どうということか。

西村総務担当常務理事 役員候補がなかなか決まらなかった。まとまるのをまつては印刷が遅れ、皆さんの予定が立たない。断念して招集通知を発信した。委任状の内訳は、

会長に対するもの五百八十二、議長に対するもの三百三十三、その他への委任が二百二十二、白紙委任が千五百四十四あった。捺印のないのが二百六十五あり、これは無効。委任しないとされたのが七十三あった。

大森薫副会長 役員候補の決定が遅れたいきさつをお話したい。一、二三月の理事会で大塚会長は「いままでの二年間は、ホップ・ステップでやってきた。これからはジャンプをし

て百周年につなげていきたい」と総会の意思を表明された。常任評議員は、このことを承知されていたのだが、三月二十七日の評議員会で覆ってしまった。そのあと会長候補が副会長候補を選んだのだが、これがなかなか決まらなかった。大塚会長には四年の任期をまつとうしていたかなければならないと思うが、いきなり評議員会で覆ってしまった。残念に思っている。

■手続きを踏んで候補決定

田邊壽常任評議員(四六一八) 評議員会は会長・副会長などの候補を決めると定款・細則で申しつかっている。そこで一月十八日に懇談会、二月十七日に評議員会を開き、課せられた決定方法を認識し、三月二十四日に会長候補を推薦することを確認した。当初は五人が推薦された。討議の結果、大塚候補と平山候補が残った。無記名による投票がいいということになって、投票した結果、平山候補十六票、大塚候補八票という結果が出たので細則八条にしたがつて会長候補として推薦することにした。

よりよい会長の条件としては若返りが必要だ。平山候補は国内外の登山の経験があり、アドベンチャーとして南極探検にも参加されたという

立派な業績がある。会長からは「総会投する。決議に異議あり」と申し入れられたが、評議員会としては会が決まった通りの仕事をしたと考えている。

■慣行律が重要だ

織内信彦名誉会員(一八四六) 日本山岳会クラブであり、慣行、むづかしく言えば慣行律にしたがつてきた。慣行律というのは文章に表れないものであり、文章より尊重することは社会的な良識だ。これまで「会長は二年二期」だった。これは守って欲しい。どうしてもやめていただきたいのなら、不信任とする理由を示すべきである。

平林克敏評議員(五〇七二) 評議員会は、しかるべき手続きをとったと説明があった。たしかに、とおりにっぺんでは、そうかもしれないが、理事あるいは理事会になにひとつ相談・打合せもなく決定し細則のあるところ、というのでは評議員会、理事会のあり方に禍根を残すのではないか。評議員会は日本山岳会の理事の執行がうまく機能しているか大所高所からみる機関であり、また会長が病になったときなどに、候補をたてる資格があるのだが、これを盾にとつて瞬時のうちにとというのは反対である。

山口俊輔会員(四九七六) 大塚会長が二期目をやるといったことを優先して進めなければいけないのではないか。評議員会の推薦候補を振り出しに戻し、大塚会長に継続するような形でお願いしたい。

■評議員会は諮問機関ではない

吉永英明常任評議員(七〇四五) 大塚会長は、冒頭に評議員会は理事会の諮問機関・付属機関と話されたが、これには反論せざるをえない。評議員会は定款で定められた機関である。付属機関では決まらないはずだ。会長・副会長候補の推薦は細則第七条・第八条に明文化されていることである。

また、突如として投票で決めたといわれるが、そうではなく、一月十七日には評議員会の懇談会を開き定款と細則について勉強した。そして二月十七日に第一回の評議員会を開催した。その際、「理事は再任をさまたげない」と書いてあるが、「再任しなければならぬ」とは書いていないことを確認した。紆余曲折があったが、投票にいたったのである。役員は細則を遵守する義務があると思う。そうでなければ、組織の維持・発展は無理である。投票に際しては大塚会長みずからが投票した。委任された二票とあわせて三票の投票だ

った。結果にしたがうことを前提にした行動だったと思う。

平林評議員 二月十七日の評議員会では、ほとんどの委員が「やっと会長の顔を分かったようになったのに二年で変わる。そういうことを繰り返してはよくない。四年ぐらいがいいのでは」と考えていたと思う。

「二年で再任を妨げない」とあることも確認した。ところが、三月二十四日の評議員会で、いまのようなことになってしまった。二十五ある支部を会長が二年間でどうやって回すのか。平山候補はどうしてもやりたいたった訳ではないだろう。

鈴木捷夫(二〇六三三) 動議を提案する。大塚会長が「統投する」と表明しておられるのだから、ここで議決してはいかがか。

神崎監事 ちょっと急ぎすぎるのではないか。冷静に討議してほしい。

織内名誉会員 そもそも立候補されるかたは山あるいは山岳会に対する考え・意見を表明してほしい。「山岳」あるいは「山」に少なくとも考えのようものを発表されているといいのだが、それがいい。賛成のしようがない。

山田二郎元会長(三四七三) 平山さんが立候補したのではないことを理解すべきだと思う。立候補したのではなく推薦されたのである。これを

誤解されては困る。それから、これは伝聞だが、大塚会長が選任されたとき、評議員会でいきさつがあったらしく、「若返りを図るため任期は二年で、あとは若い人にバトンタッチする」という話があったようだ。そういうことだから、評議員会は会長の任期がきて後任を推薦したにすぎず、これは自然の流れである、と思う。

■「任期二年」の約束ない

斎藤惇生前会長(五三七三) 大塚会長を推薦した二年前の評議員会で「任期は二年」というようなことは、だれも言っていないし、暗黙の了解があったこともない。大塚会長は、たしかに高齢ではあるが、医師としての立場からみても、かくしやくとしておられる。

川崎達夫会員(八〇三五) 動議を提案する。採択すべきである。

芳賀孝郎評議員(四六三七) 評議員会は見識がなく山岳会を問題に陥れているように聞こえてくるのが残念である。堂々と意見を述べることでできる開かれた場であり、すばらしい伝統だと思っている。大塚会長を選任したときも決戦となったが、選挙でなく、すべての評議員が意見を述べた。ヒフティヒフティのような状況だったので斎藤会長に一任した。

その際、「二年で代わる」ということだった。

中世古隆司会員(五一七八) 白紙に戻したらどうだ。会長・副会長を地方に回したらどうだろう。支部として会長候補を推薦してもよい。

神崎監事 評議員会が票決で決めたことでギクシャクしている。これ以上の票決には反対だ。大塚会長と平山候補と、あと何人かはいつて話し合ってもいいのではないか。

橋本清会員(六六〇六) 最高の議決機関である総会を無視するような発言はやめてほしい。

尾上昇会員(六〇〇一) 候補を推薦するという規約があるわけで、これが議題の最優先であるはず、それが否決されれば理解できるが、動議として違う人を推薦することができるのか。

■設立の目的を大切に

井上公利会員(四九六四) 社団法人として認可を受けたのには目的があるはずだ。その目的が細則よりも重要である。目的に沿って運営していかなければならない。「再任を妨げない」とか「再任しろ」とは書いていない」という解釈をして混乱しているのはおかしい。評議員会が出したことを総会で否決して大丈夫か、という話があったが、総会は最高意思

決定機関であって、議決していいわけである。

■評議員会案を否決し動議可決

ここで議決にはいった。大塚議長は「二、三の人から動議の提案がだされており、これを受けて採決したい」と発言。まず、動議ではなく、総会に提出された第三号議案「平成十三年・十四年度役員・評議員改選の件」に対する採決をとった。挙手で行われ、結果は賛成三十六、反対九十六だった。議長は、委任状もあり第三号議案は否決された、と発言した。

続いて、大塚会長を会長候補として採決する動議に対する賛否を採決した。挙手の結果、賛成九十一、反対三十五となり、委任状を含め大塚会長の再任が可決された。会長が承認されたあとは、副会長・理事の選任にはいる。「会長一任」という声があり、大塚会長は、副会長・理事、監事の候補として、さきに評議員会が推薦した候補者を大塚会長の案として提示、候補者リストを読み上げた。「以上、一括して承認を求めます」との発言に大きな拍手あった。評議員については原案どおり拍手多数で承認された。時計は午後五時を回っていた。

(写真・村井葵、文・高橋重之)

- 1月11日 ガモフ博士講演会(医療) 私学会館
 1月27~28日 総務委員会セミナー(総務) 戸倉
 1月29日 第32回山岳図書を語る夕べ(図書) 本会
 2月3~5日 アイスクライミング講習会
 (指導・青年部・集会・遭難対策) 八ヶ岳
 2月10~12日 スキー懇親会(集会) 蔵王高原
 2月24~25日 全国支部事務局担当者会議(総務) 東京グリーンホテル
- 2月28日 第29回山岳史懇談会(図書) 本会
 3月11日 自然観察山行(自然保護) 北高尾の森
 3月15日 国際低酸素シンポジウム(医療) ジャスパー
 3月15日 講演会「日本の山岳景観について」(科学) 本会
 3月31日 新入会員オリエンテーション(総務) //
2. 登山施設の運用、その他登山のための適切な事業
 * 上高地山岳研究所の運用
 * 受入れ資料保管
 * 各博物館、美術館との提携強化
 * 海外遠征の記録、会合、行事等の記録、フィルムのビデオテープ化による保存
3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画及び指導
 * 6月20日 事例に学ぶ近郊山域遭難対策(集会・遭難対策)
 * 9月19日 救急法講習会「山でいざと言う時に」(集会・遭難対策)
 * 11月7日 テーピング講習会(集会)
 * 2月中旬 雪崩ピーコン講習会(指導・学生部・遭難対策)
 * 山岳遭難データベース・ホームページの開設(遭難対策)
4. 自然保護活動の推進
 * 自然保護委員会による自然保護指導者養成のための「山の自然学講座」
 * 自然保護委員会報「木の目草の芽」隔月刊行
 * ネパール・バプリーにおけるラリグラス(しゃくなげ)植林
 * 自然保護委員会による「高尾の森づくり」
5. 機関紙等の発行
 * 山岳第95年(2000年)の発行
 * 会報659号~670号の発行
 * インターネット・ホームページの更新
6. 国内及び外国山岳団体との情報交換
 * 国内関係団体(日本山岳協会・東京都山岳連盟・日本ネパール協会・日本ヒマラヤ協会・HAT-Jその他)との連絡
 * 海外登山団体との機関紙の交換及び情報誌の購入
 * 4月10日 ネパール登山協会会長歓迎会
 * 4月13日 中国登山協会代表団歓迎会
 * 4月20日 米国山岳会ウィッタカー氏歓迎会
 * 7月18日 インド登山財団ロテラ氏歓迎会
 * 7月19日 韓国登山文化院訪問
 * 8月15~22日 カザフスタン訪問
 * 8月20~24日 アメリカ山岳会訪問
 * 10月6日 ボリビア山岳会訪問
 * 10月16~23日 日韓友好学生登山
 * 10月26~29日 カナダ山岳会年次総会
 * 12月4日 カナダ山岳会会長歓迎会
7. 海外登山等
 * 6月7~30日 第11次マッキンリー気象観測機器設置登山隊(最終)
 * 8月4~20日 アルバータ峰登山・トレッキング
8. その他目的を達成するために必要な事業
 * 山岳図書の整備
 * 山研ミニ水力発電装置本格稼働(ミニ水力発電実行委員会)
 * 海外登山基金による助成
 * 第4回会員アンケートの実施
 * 百年史の準備
 * その他

(社) 日本山岳会 平成12年度事業報告

2000年4月1日~2001年3月31日

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研修会、講演会、展覧会、及びシンポジウムの開催
- 4月1日 11年度後期新入会員オリエンテーション(総務) 本会
 4月14日 鳥海山ワシタカ調査(自然保護) 酒田市
 5月11日 学生部総会(学生) 本会
 5月13日 第2回「新日本山岳誌」編集会議 本会
 5月15日 山研ミニ水力発電完工式及び運転
 (ミニ水力発電・科学) 上高地山研
 5月20日 支部長会議(総務) 東京グリーンホテル
 5月20日 通常総会(総務) 東京グリーンホテル
 5月27~28日 若葉会山行(集会) 下北半島
 6月1~7月10日 山のスケッチ展(山研・スケッチクラブ) 山研
 6月3~4日 第20回日本登山医学シンポジウム(医療) 本会
 6月3~4日 新入会員のための徳本峠越えとウエストン祭
 (山研) 上高地
 6月4日 ウエストン祭(信濃支部) 上高地
 6月10日 第7回「古道を歩く」(図書) 富士山旧登山道
 6月9~12日 白神山地体験造林作業(自然保護) 白神山地
 6月19日 委員会・同好会連絡会議(総務) 本会
 6月22日 入門講座「登山者の保身術」(集会) //
 6月24~25日 小川山集会(学生) 奥秩父小川山
 6月29日 講座 夏の天気図の読み方(科学) 本会
 7月1~2日 探索山行「大分水嶺に高山植物を訪ねる」(科学) 湯の丸
 7月6~7日 全国山岳遭難対策協議会(遭難対策) 米子市
 7月17~27日 日本山岳会所蔵「山岳絵画展」(山研・資料) 山研
 7月30~9月2日 支部企画展「石川の山々」(山研・石川支部) 山研
 8月15~22日 天山サミット参加(学生) カザフスタン
 8月17~20日 インタープリター養成セミナー(山研) 山研
 8月19~21日 フォーラムイン後援シンポジウム(自然保護) 秋山郷
 8月22日 自然観察山行(自然保護) 苗場
 9月9日 名誉会員を囲む会(総務) 本会
 9月16~17日 全国支部懇談会(東九州支部) 別府市
 9月21日 山野井泰史夫妻講演会(青年部) //
 9月25日~10月27日 山岳写真展「ここに映える山々」
 (山研・フォトクラブ) 山研
 9月27日 ツアーリーダー講習会(医療) 本会
 9月30日 新入会員オリエンテーション(総務) //
 10月1~5日 国際登山医学会総会(医療・海外) チリ
 10月14~15日 自然保護全国集会(自然保護) 荒島岳
 10月14~15日 焼岳登山とミニ水力発電見学・講演会
 (科学・山研) 山研
 10月15日 スポーツクライミング講習会(集会・指導) 昭島市体育館
 10月21日 全国山岳博物館連絡会議(資料) 本会
 10月27日 第9回山を語る(図書) //
 11月1日 山岳映画会「雪の薬師、槍越え」(フィルムビデオ) //
 11月16日 アルバータ峰報告会(海外) //
 11月18日 大学山岳部監督会議(学生)
 11月18日 「八千米峰登頂者アンケート」中間報告(高所)
 11月19日 第37回マラソン大会(学生) 皇居外苑
 11月25日 シンポジウム「登山者の立場から山のトイレ問題を考える」(科学・自然保護)
 12月2日 支部長会議(総務) 新高輪プリンスホテル
 12月2日 年次晩餐会(総務) //
 12月2日 西暦2000年記念「山岳写真展」 //
 12月3日 年次晩餐会記念山行(集会) 富山
 12月11日 高所登山に関するシンポジウムとアンケート発表
 (高所) 千駄ヶ谷
 12月17日 クライミング集会・コンペ(青年部) 多摩スポーツ会館

収 支 計 算 書

平成12年4月1日～平成13年3月31日

通信・運搬費	1,800,000	709,222	1,090,778
保険料	300,000	319,310	△ 19,310
修繕費	400,000	98,261	301,739
租税公課	500,000	605,800	△ 105,800
光熱水道費	600,000	637,689	△ 37,689
電話料	450,000	433,020	16,980
会議費	300,000	130,538	169,462
什器備品費	300,000	0	300,000
振替手数料	700,000	634,690	65,310
福利厚生費	250,000	245,853	4,147
事務所管理費	1,000,000	935,701	64,299
その他管理費	3,000,000	2,963,613	36,387
負担金	150,000	120,000	30,000
賃借料	3,240,000	3,240,000	0
雑費	1,000,000	1,062,502	△ 62,502
管理費計	30,240,000	25,726,627	4,513,373
3.固定資産取得支出			0
什器備品購入支出	0	190,000	△ 190,000
固定資産取得支出計	0	190,000	△ 190,000
4.特定預金支出			0
秩父宮記念賞基金支出	1,000,000	1,000,000	0
長期計画積立金支出	5,000,000	12,043,305	△ 7,043,305
海外登山基金支出	0	100,000	△ 100,000
終身会費積立金支出	0	750,000	△ 750,000
特定預金支出計	6,000,000	13,893,305	△ 7,893,305
5.予備費			0
予備費	1,500,000	0	1,500,000
当期支出合計(C)	86,784,000	87,624,725	△ 840,725
当期収支差額(A)-(C)	△ 4,174,000	1,189,145	△ 5,363,145
次期繰越収支差額(B)-(C)	13,487,111	18,850,256	△ 5,363,145

正味財産増減計算書

平成12年4月1日～平成13年3月31日

科 目	金 額	
I. 増加の部		
1. 資産増加額		
当期収支差額	1,189,145	
棚卸資産	388,457	
秩父宮記念賞基金	1,000,000	
長期計画積立金	12,043,305	
終身会費積立金	750,000	
海外登山基金	100,000	
什器備品	190,000	15,660,907
2. 負債減少額	0	0
増加額合計		15,660,907
II. 減少の部		
1. 資産減少額		
図書出版研究基金	5,043,305	5,043,305
2. 負債増加額	0	0
減少額合計		5,043,305
当期正味財産減少額		10,617,602
前期繰越正味財産額		399,648,487
期末正味財産合計額		410,266,089

科 目	予算額	決算額	差異	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	40,000	23,589	16,411	
2. 会費・入金収入				
入会金収入	4,800,000	3,760,000	1,040,000	
復活会費収入	0	240,000	△ 240,000	
通常会費収入	67,000,000	67,527,000	△ 527,000	
終身会費収入	0	750,000	△ 750,000	
会費・入金収入計	71,800,000	72,277,000	△ 477,000	
3. 事業収入				
広告料収入	1,800,000	1,981,980	△ 181,980	
印税収入	20,000	0	20,000	
刊行物頒布収入	250,000	209,690	40,310	
その他事業収入	4,200,000	4,232,512	△ 32,512	
山研使用料収入	3,500,000	3,090,410	409,590	
事業収入計	9,770,000	9,514,592	255,408	
4. 補助金等収入				
補助金収入	0	1,000,000	△ 1,000,000	(注)1
5. 寄付金収入				
寄付金収入	0	100,000	△ 100,000	
募金収入	0	0	0	
寄付金収入計	0	100,000	△ 100,000	
6. 雑収入				
受取利息	200,000	184,630	15,370	
雑収入	800,000	670,754	129,246	
雑収入計	1,000,000	855,384	144,616	
7. 特定預金取崩収入				
図書出版研究基金取崩収入	0	5,043,305	△ 5,043,305	
当期収入合計(A)	82,610,000	88,813,870	△ 6,203,870	
前期繰越収支差額	17,661,111	17,661,111	0	
収入合計(B)	100,271,111	106,474,981	△ 6,203,870	

(注)1 「社団法人国土緑化推進機構」助成金 ￥1,000,000

科 目	予算額	決算額	差異	備考
II. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	11,300,000	10,045,082	1,254,918	
図書管理費	600,000	285,776	314,224	
調査研究費	2,734,000	3,462,372	△ 728,372	
指導費	1,270,000	1,267,775	2,225	
支部関係費	12,200,000	11,832,102	367,898	
海外諸関係費	400,000	363,824	36,176	
山岳研究所運営費	4,040,000	4,134,855	△ 94,855	
海外登山補助費	1,500,000	1,600,000	△ 100,000	
その他事業費	9,000,000	8,694,681	305,319	
印刷・製本費	700,000	1,100,907	△ 400,907	
通信運搬費	5,300,000	5,027,419	272,581	
事業費計	49,044,000	47,814,793	1,229,207	
2. 管理費				
給料・手当	12,400,000	11,689,655	710,345	
文具・消耗品費	350,000	306,772	43,228	
印刷・製本費	1,800,000	823,091	976,909	
旅費・交通費	1,700,000	770,910	929,090	

2. 基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期残高
貸付信託 (中央三井信託銀行)	7,580,000	0	0	7,580,000
〃 (日本信託銀行)	420,000	0	0	420,000
合 計 (基 本 金)	8,000,000	0	0	8,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高	備 考
現 金 預 金	13,967,351	13,947,856	
未 収 会 費	4,068,000	4,524,000	
そ の 他 未 収 金	0	784,980	
合 計	18,035,351	19,256,836	
前 受 会 費	184,000	271,000	
預 り 金	190,240	135,580	
合 計	374,240	406,580	
次期繰越収支差額	17,661,111	18,850,256	

4. 固定資産の取得価格、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取 得 価 格	減価償却累計額	当期末残高
建 物	144,423,000	0	144,423,000
什 器 備 品	9,594,982	0	9,784,982
合 計	154,017,982	0	154,207,982

財 産 目 録

平成13年3月31日

科 目	金 額		
[1] 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
現金預金			
現金 現金手許有高	161,695		
振替貯金			
東京地方貯金局	1,551,499		
普通預金			
あさひ銀行市谷支店	10,072,758		
東京三菱銀行市谷支店	1,887,379		
中央三井信託銀行本店	177,659		
中央三井信託新宿西口支店	75,597		
日本信託銀行本店	21,272		
未収会費 377名分	4,524,000		
その他未収金	784,980		
棚卸資産 注1)	1,807,376		
流動資産合計		21,064,212	
2. 固 定 資 産			
(1)基本財産			
貸付信託			
中央三井信託銀行本店	7,580,000		
日本信託銀行本店	420,000		
基本財産合計	8,000,000		
(2)その他固定資産 注2)			
土 地 57.91484㎡	46,297,170		
建 物 432.63㎡	144,423,000		
什器・備品	9,784,982		
敷 金	300,000		
秩父宮記念賞基金 (定期預金・あさひ市ヶ谷)	13,000,000		
長期計画積立金 (定期預金・郵便貯金)	5,043,305		
長期計画積立金 (定期預金)			

貸 借 対 照 表

平成13年3月31日現在

科 目	金 額		
[1] 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
現 金	161,695		
振 替 貯 金	1,551,499		
普 通 預 金	12,234,662		
定 期 預 金	0		
未 収 会 費	4,524,000		
そ の 他 未 収 金	784,980		
棚 卸 資 産	1,807,376		
流動資産合計		21,064,212	
2. 固 定 資 産			
基 本 財 産			
貸 付 信 託	8,000,000		
基 本 財 産 合 計	8,000,000		
そ の 他 固 定 資 産			
土 地	46,297,170		
建 物	144,423,000		
什 器 備 品	9,784,982		
敷 金	300,000		
秩父宮記念賞基金	13,000,000		
長期計画積立金	57,593,305		
海外登山基金	93,600,000		
終身会費積立金	16,610,000		
退職給与引当預金	4,691,620		
その他固定資産合計	386,300,077		
固定資産合計		394,300,077	
資 産 合 計			415,364,289
[2] 負 債 の 部			
1. 流 動 負 債			
前 受 会 費	271,000		
預 り 金	135,580		
流動負債合計		406,580	
2. 固 定 負 債			
退 職 給 与 引 当 金	4,691,620		
固定負債合計		4,691,620	
負 債 合 計			5,098,200
[3] 正味財産の部			
正 味 財 産			410,266,089
(うち基本金)			(8,000,000)
(当期正味財産増加額)			(10,617,602)
負債及び正味財産合計			415,364,289

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- (2) 固定資産の減価償却について
建物及び什器備品の減価償却は行っていない。
- (3) 引当金の計上基準について
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の218%に相当する額を計上している。
- (4) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、左記3に記載のとおりである。

世界対応 VTR001 NWV	4. 5. 11	250,000	〃
小型気象ファクシミリ JAX-9	4. 10. 19	320,000	〃
ナショナル冷凍冷蔵庫 NR-041VP2-H	5. 3. 20	250,000	山研
ナショナル29インチテレビ TH-29VS35	5. 3. 20	280,000	〃
ナショナルBS付ビデオ HV-BS50S	5. 3. 20	250,000	〃
ミニ水力発電装置	11. 11. 30	3,816,750	〃
シャープ・ノートパソコン PC-MJ700R	13. 2. 28	190,000	事務所
合 計		9,784,982	

財産目録記載外のその他物品リスト(主として受贈品)

2. 絵画

題 名	種類・号数	作者名	掲載、保管場所
白 馬 岳	油 - A 50	中村清太郎	大町山岳博物館
富 士 山 麓	油 - A 25	茨木猪之吉	河口湖町立美術館
田 代 池 の 白 樺	油変形 - 6	中村清太郎	本 会
群 狼 墨 絵	墨 絵	石井 鶴三	本 会
伊 豆 半 島	油 - 10	茨木猪之吉	松本アルプス山岳館
針 ノ 木 峠 より	油 - 10	茨木猪之吉	本 会
徳本峠から穂高連峰	墨 絵	石田 吟松	松本アルプス山岳館
初 冬 の 両 神 山	油 - 10	茨木猪之吉	本 会
鳥 (カット原画)	墨 絵	石井 鶴三	本 会
メー ル ド グ ラ ス	エッチング		本 会
カン チェン ジ ユン ガ	エッチング		松本アルプス山岳館
ユ ン グ ラ ラ ウ	エッチング	シュラフ・ヤ シントフイット	本 会
潤 沢 より 北 穂 高	油	山里 寿男	伯耆国山岳美術館
槍 ケ 岳 初 夏	水彩 - 6	山里 寿男	松本アルプス山岳館
カン チェン ジ ユン ガ	油 - 10	中村清太郎	本 会
北 穂 高 滝 谷	バステル	矢崎千代二	本 会
或 朝 の 槍 ケ 岳	油 - 25	足立源一郎	本 会
北 穂 高 主 峰	油 - 25	足立源一郎	伯耆国山岳美術館
槍 ケ 岳	油 - 25	足立源一郎	本 会
タンボチュの僧院	油 - P 8	足立源一郎	本 会
シェ ル パ ニ の 親 子	水彩 - 4	清野 恒	松本アルプス山岳館
冬 の 山 (清 太 山)	水彩 - 4	清野 恒	松本アルプス山岳館
梓 川 秋 色	墨 絵	近藤 茂吉	松本アルプス山岳館
早朝の上高地山岳研究所	油 - 12	後藤 三男	本 会
旧上高地山岳研究所	版画 - 8	松田 敏男	上高地山岳研究所
焼 岳 秋 趣	版画 - 10	松田 敏男	上高地山岳研究所
ナムチャバルワ峰景色	版画 - 8	鈴木 正俊	伯耆国山岳美術館
白 馬 雪 田	油 - 10	神原 忠夫	伯耆国山岳美術館
上 高 地 秋 景	油 - 10	丸山 晚霞	本 会
マ チ ャ プ チ ャ レ	油 - F 20	後藤 三男	上高地山岳研究所
朝 霧	油 - 20	武井 清	本 会
白 樺 の 林	水彩 - 8	越智 英夫	本 会
麓	油 - 6	茨木猪之吉	本 会
ヒマラヤダーズリンに春	油 - P 50	倉員 辰雄	本 会
タ ム セ ル ク	油 - F 4	上野 春香	伯耆国山岳美術館
安 曇 野 の 春	油 - 30	武井 清	本 会
ヒ マ ラ ヤ の 古 都	油 - 30	後藤 三男	松本アルプス山岳館
ア ル バ ー タ	油 - 30	藤江幾太郎	本 会
ケ ル ン	油 - 6	レオン・アマン	本 会
山	油 - 6	金光 義郎	上高地山岳研究所
アルバータとビッケル	油 - 6	辰沼 広吉	本 会
題 名 不 詳 24 枚	水 彩	カナダ山岳会	本 会
	油 - 10	茨木猪之吉	本 会

金・東京三菱市ヶ谷	52,550,000		
海外登山基金 (定期預金・あさひ市ヶ谷)	93,600,000		
終身会費積立金 (定期預金・あさひ市ヶ谷)	16,610,000		
退職給与引当預金 (定期預金・あさひ市ヶ谷)	4,691,620		
その他固定資産合計	386,300,077		
固定資産合計		394,300,077	
資産合計			415,364,289
[2] 負債の部			
1. 流 動 負 債			
前受会費 (平成13年度会費21名分)	271,000		
預り金 職員に対する源泉所得税その他	135,580		
流動負債合計		406,580	
2. 固 定 負 債			
退職給与引当金	4,691,620		
固定負債合計		4,691,620	
負債合計			5,098,200
正 味 財 産			410,266,089

注1) 棚卸資産内訳

種 類	摘 要	金 額
刊 行 物	山岳総索引、山岳覆刻版等	621,950
服 飾 品 ・ そ の 他	クラブタイ、タイ止等	1,185,426
合 計		1,807,376

注2) その他固定資産内訳

1. 建物および土地

A 事務所及び図書室		
場所	東京都千代田区四番町5番4号	
構造	鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階付5階建	
	(事務所) 区分所有建物1階部分 103.32㎡	
	宅地持分 1,124.56㎡×339/10,000	
	= 38.122584㎡	
	(図書室) 区分所有建物1階部分 55.22㎡	
	宅地持分 1,124.56㎡×176/10,000	
	= 19.792256㎡	
計	158.54㎡ 宅地持分 57.91484㎡	72,720,170
B 上高地山岳研究所		
場所	長野県南安曇郡安曇村4469番地1	
構造	鉄筋コンクリート造 (一部木造) 1棟	
	274.09㎡	118,000,000
合 計		190,720,170

2. 什器備品

品 名	取得年月日	取得価格	所 在
書庫内移動書架一式コンパックル	S53. 2. 10	1,500,000	図書室
閲覧用テーブル (木製2台)	53. 9. 28	250,000	〃
ライティングビューロー (木製)	54. 6. 23	280,300	事務所
フィルム収納キャビネット (スチール製)	56. 8. 8	254,000	〃
図書カード容器 (木製3段)	56. 9. 12	200,000	図書室
書棚 (木製2段)	56. 12. 22	500,000	〃
16mm 映写機16-CL (MO)	61. 5. 13	156,000	事務所
木製書架ガラス戸付 (2台)	62. 9. 24	700,000	図書室
シャープ液晶ビジョナー式	H2. 7. 19	587,932	事務所

4月15日	植樹祭(自然保護)	
4月21日	植樹手直し(自然保護)	
4月中旬	スポーツクライミング講習会(指導)	
4月	学生会総会(学生)	本会
5月初旬	山岳写真講座(フィルムビデオ)	
5月12日	第8回高尾の森づくり(自然保護)	
5月18日	支部長懇談会(総務)	東京グリーンホテル
5月19日	支部長会議(総務)	"
5月19日	通常総会(総務)	"
5月19・20日	クラック・クライミングの講習会(青年部・指導)	小川山
5月25・26日	第21回日本登山医学シンポジウム(医療)	
5月26・27日	若葉会山行(集会)	
5月	国際山岳年実行委員会準備会(海外)	
5月	新入部員歓迎会(学生)	
6月2・3日	新入会員のための「徳本峠越えとウエストン祭」(山研)	上高地
6月9日	第9回高尾の森づくり(自然保護)	
6月16・17日	探索山行「奥会津に高層湿原とブナ林を訪ねる」(科学)	
6月18日	委員会・同好会連絡会議(総務)	本会
6月19日	テーピング講習会(集会)	
6月中旬	自然観察山行(自然保護)	日光
6月	第8回古道を歩く(図書)	
6月	講座「気象:雲の形と前線」(科学)	
6月	クライミングコンペin丹沢(学生)	丹沢
6月	講習会 救急救命法(学生)	
7月14日	第10回高尾の森づくり(自然保護)	
7月初旬	撮影会(フィルムビデオ)	関東周辺の山
7月	全国山岳遭難対策協議会出席(遭難対策)	
8月11日	第11回高尾の森づくり(自然保護)	
8月中旬	自然観察山行(自然保護)	高尾山
8月17・19日	フォーラムIN共催シンポジウム(自然保護)	
9月8日	名誉会員を囲む会(総務)	本会
9月8日	第12回高尾の森づくり(自然保護)	
9月22・23日	プチ・オータムコンサート(山研)	
9月23日	初級岩登り講習会(集会)	
9月	第10回山を語る(図書)	
9月	講演会「道に学ぶ」(科学)	
9月	小川山懇親会 岩登り講習(学生)	
9月29・30日	全国支部懇談会(石川支部)	片山津
10月	第5回山岳博物館連絡会議(資料)	
10月6・7日	自然保護全国集会(自然保護)	大台ヶ原
10月11日	講演会(青年部)	
10月13日	第13回高尾の森づくり(自然保護)	
10月13・14日	新入会員のための「ミニ水力発電装置見学と焼岳登山」	上高地
10月20・21日	きのこ山行(集会)	
10月中旬	スポーツクライミング講習会(指導)	
10月27日	新入会員オリエンテーション(総務)	本会
10月	冬山講習会(学生)	
11月10日	第14回高尾の森づくり(自然保護)	
11月18日	医療委員会講演会(医療)	
11月上旬	山岳フィルム映画上映会(フィルムビデオ)	
11月	第33回山岳図書を語る夕べ(図書)	
11月	シンポジウム「科学的にとらえた中高年の高所登山」(科学)	
11月	大学山岳部監督会議(学生)	
11月	マラソン大会(学生)	
12月1日	支部長会議(総務)	新高輪プリンスホテル
12月1日	年次晩餐会(総務)	"
12月2日	年次晩餐会記念山行(集会)	
12月8日	第15回高尾の森づくり(自然保護)	
1月12～14日	スキー懇親会(集会)	
1月17日	山岳医療技術セミナー(医療)	
1月下旬	アイスクライミング講習会(指導・遭難対策)八ヶ岳	

題名不詳	8枚	油	6	茨木猪之吉	本	会
題名不詳	12枚	水	彩	茨木猪之吉	本	会
スケッチブック	32冊			茨木猪之吉	本	会
ロンブクよりエベレスト	版	画		H・ソマベリ	大町山岳博物館	
白馬残照	版	画		鈴木 正俊	本	会
穂高連峰	版	画		小暮 真望	本	会
安曇野と常念岳	版	画		小暮 真望	本	会
尾瀬と燧ヶ岳	版	画		小暮 真望	本	会
谷川岳	版	画		小暮 真望	本	会
ジダンゴ山晩秋	版	画		鈴木 正俊	本	会
檜洞丸山荘	版	画		鈴木 正俊	本	会

(他の絵画、写真 省略)

2. 図書

種類	摘要	冊数
和書	平成12年度受入冊数	216冊
洋書	平成12年度受入冊数	39冊
		10460冊
		3574冊

3. フィルム・ビデオ

フィルム	15点	「マナスルに立つ」他
ビデオ	246本	「チョモランマ北壁隊」「カンチェンジュンガ縦走」「ナンダコツ征服(1936)」「ナムチャバルワ(1991年総集編)」「山を讀み山を究める:日本山岳会この10年の歩み」「日本百名山(全20巻)」「花の百名山(全20巻)」「このころの名山:日本霊山紀行(全10巻)」他

社団法人 日本山岳会 平成12年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、および財産目録を監査し、正確妥當なことを認めます。

平成13年4月10日

社団法人 日本山岳会

監事 神崎忠男

監事 中村 保

監事監査報告

平成13年4月10日に行った平成12年度(平成12年4月1日～平成13年3月31日)に於ける会計の監査ならびに期中の業務監査の結果を、次の通り報告する。

記

会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧等、必要と思われる手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。

業務監査については、理事会等に出席し、業務執行の妥当性を検討した。

監査意見は次の通り。

- (1) 現金については、監査日当日現在の残高と、帳簿の金額は一致し、正しく出納されているものと認める。
- (2) 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録は、本会の収支状況及び財政状態を正しく示しているものと認める。
- (3) 事業報告の内容は、真実であると認める。
- (4) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令、定款に違反する重大な事実はないと認める。
- (5) 会員サービス向上の観点から、各委員会活動の内容を見直し整理・統合・充実を図る。
- (6) 別会計で処理されている事業あるいは活動を本会計に組み込む方向で個別にその妥当性と方法を検討する。
- (7) 会長印の使用規定を明確にする。

以上

社団法人日本山岳会 平成13年度事業計画

2001年4月1日～2002年3月31日

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研修会、講演会、展覧会、及びシンポジウムの開催

4月1日 長野岳史氏講演会(青年部)

7.雑 収 入				
受 取 利 息	200,000	200,000	0	
雑 収 入	800,000	800,000	0	
雑 収 入 計	1,000,000	1,000,000	0	
8.特定預金取崩収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	82,390,000	82,610,000	△220,000	
前期繰越収支差額	18,850,256	17,661,111		
収 入 合 計(B)	101,240,256	100,271,111		

科 目	平成13年度予算額	前年度予算額	増 減	備考
Ⅱ. 支 出 の 部				
1. 事 業 費				
出 版 事 業 費	11,080,000	11,300,000	△220,000	
図 書 管 理 事 業 費	600,000	600,000	0	
調 査 研 究 事 業 費	3,180,000	2,734,000	446,000	
指 導 研 修 費	1,300,000	1,270,000	30,000	
支 部 事 業 費	12,500,000	12,200,000	300,000	
海 外 連 絡 関 係 費	400,000	400,000	0	
海 外 登 山 補 助 費	1,600,000	1,500,000	100,000	
山 研 事 業 費	4,040,000	4,040,000	0	
そ の 他 事 業 費	9,000,000	9,000,000	0	
通 信 運 搬 費	5,300,000	5,300,000	0	
印 刷 製 本 費	2,400,000	700,000	1,700,000	
事 業 費 計	51,400,000	49,044,000	2,356,000	
2. 運 営 管 理 費				
給 料 手 当	12,400,000	12,400,000	0	
文 具 消 耗 品 費	300,000	350,000	△50,000	
印 刷 製 本 費	1,000,000	1,800,000	△800,000	
旅 費 交 通 費	700,000	1,700,000	△1,000,000	
通 信 運 搬 費	1,200,000	1,800,000	△600,000	
火 災 保 険 料	320,000	300,000	20,000	
営 繕 費	300,000	400,000	△100,000	
租 税 公 課	500,000	500,000	0	
光 熱 水 道 費	600,000	600,000	0	
電 話 料	470,000	450,000	20,000	
会 議 費	300,000	300,000	0	
什 器 備 品 費	300,000	300,000	0	
振 替 手 数 料	700,000	700,000	0	
福 利 厚 生 費	300,000	250,000	50,000	
事 務 所 管 理 費	1,000,000	1,000,000	0	
そ の 他 管 理 費	3,000,000	3,000,000	0	
負 担 金	120,000	150,000	△30,000	
賃 借 料	3,240,000	3,240,000	0	
雑 費	1,000,000	1,000,000	0	
管 理 費 計	27,750,000	30,240,000	△2,490,000	
3. 固 定 資 産 取 得 支 出				
什 器 備 品 購 入 支 出	0	0	0	
固 定 資 産 取 得 支 出	0	0	0	
4. 特 定 預 金 支 出				
長 期 計 画 積 立 金 支 出	5,000,000	5,000,000	0	
秩 父 宮 記 念 賞 基 金 支 出	1,000,000	1,000,000	0	
退 職 給 与 引 当 預 金 支 出	0	0	0	
特 定 預 金 支 出 計	6,000,000	6,000,000	0	
5. 予 備 費				
予 備 費	1,500,000	1,500,000	0	
当期支出合計(C)	86,650,000	86,784,000	△134,000	
当期収支差額(A)-(C)	△4,260,000	△4,174,000		
次期繰越収支差額(B)-(C)	14,590,256	13,487,111		

- 1月 冬山報告会(学生)
- 2月23・24日 スキー・スノーボード講習会(青年部)
- 2月中旬 雪崩ピーコン講習会(指導・遭難対策・学生部)
- 2月 第30回山岳史懇談会(図書)
- 2月 講演会「地形図作成のための測量新技術の動向」(科学)
- 2月 アイスクライミング講習会(学生・指導)
- 2月23・24日 支部事務局担当者会議(総務) 本会
- 3月 新人勧誘対策会議(学生)
2. 山施設の運用、その他登山のための適切な事業
- * 上高地山岳研究所の運用
 - * 受入れ資料保管
 - * 各博物館、美術館との提携強化
 - * 海外遠征の記録、会合、行事等の記録、フィルムのビデオテープ化による保存
3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画及び指導
- * 7月 全国山岳遭難対策協議会(文部科学省主催)出席
 - * 2月 雪崩と雪崩ピーコン講習会
4. 自然保護活動の推進
- * 自然保護委員会による自然保護指導者養成のための「山の自然学講座」
 - * 自然保護委員会会報「木の目草の芽」隔月刊行
 - * 自然保護委員会による「高尾の森づくり」
5. 機関紙等の発行
- * 山岳第96年(2001年)の発行
 - * 会報671号～682号の発行
 - * インターネット・ホームページの更新
 - * 会員名簿(2001)の発行
6. 国内及び外国山岳団体との情報交換
- * 国内関係団体(日本山岳協会・東京都山岳連盟・日本ネパール協会・日本ヒマラヤ協会・HAT-J・その他)との連絡
 - * 海外登山団体との機関紙の交換及び情報誌の購入
7. 海外登山等
- * 日韓学生交流登山(4月6～11日)
8. その他目的を達成するために必要な事業
- * 山岳図書の整備
 - * 山研ミニ水力発電装置稼働運営
 - * 海外登山基金による助成
 - * 百周年記念事業の計画推進
 - * その他

平成13年度収支予算

平成13年4月1日から平成14年3月31日まで

科 目	平成13年度予算額	前年度予算額	増 減	備考
Ⅰ. 収 入 の 部				
1. 基 本 財 産 運 用 収 入				
基 本 財 産 利 息 収 入	30,000	40,000	△10,000	
2. 入 会 金 収 入				
入 会 金	4,000,000	4,800,000	△800,000	
3. 会 費 収 入				
通 常 会 費	67,000,000	67,000,000	0	
4. 事 業 収 入				
広 告 料 収 入	2,900,000	1,800,000	1,100,000	
印 税 収 入	10,000	20,000	△10,000	
刊 行 物 売 上 収 入	250,000	250,000	0	
山 研 使 用 料 収 入	3,000,000	3,500,000	△500,000	
そ の 他 事 業 収 入	4,200,000	4,200,000	0	
事 業 収 入 計	10,360,000	9,770,000	590,000	
5. 補 助 金 等 収 入				
補 助 金 収 入	0	0	0	
6. 寄 付 金 収 入				
寄 付 金 収 入	0	0	0	



4月末でも大薮山の頂上は残雪がいっぱい！

大薮山山行

秋田支部

JAC
支部だより

全国各地の支部から、独自の活動状況をレポートします。

四月二十九日、本年度最初の支部山行が新支部長佐々木民秀氏の案内により、北栗駒山群の高峰・大薮山において実施された。参加者は会員外を含めて二十三名。

国道三四二号線は冬季閉鎖されていたが、この時期、多いところで四、五メートルほどの雪壁の間を通行できる。交通量が少ないので、登り口でもある追越し車線のある片側に駐車する。

四月末ともなると、山には駆け足で春がやってくる。里山はヤマザクラと春もみじで彩られているが、ここはまだ十分に雪がある。美しいブナ林の斜面に入り尾根に取り付く。

夏は藪で苦勞するが、固雪を踏んで登れるこの季節はありがたい。尾根上は雪底も落ち、わずかにクレパスが覗くが歩きやすい。栗駒山群をはじめ焼石、高松山群などの山々が雪の帽子をかぶり輝いている。目の前にはマンサクが可愛げに咲いている。県境の尾根は幾つものアップダウンを繰り返して延びている。一部日当たりのよい尾根は雪が消え、藪こぎもあるが長くは続かない。

ウグイスの鳴き声は心を和らげ、足どりを軽くする。

最後の急斜面を登って雪面の大薮山に着く。快晴に恵まれ大パノラマの下で昼食。有意義に春山を堪能し

た一日だった。

(柳田勇悦)

山梨支部

第三十九回木暮理太郎翁
碑前懇親会

今年も五月二十六、二十七日、白樺の若葉がみずみずしい奥秩父・金山平に、本部から森、中尾両評議員、河西理事をはじめ毎回訪れる懐かしい顔ぶれが四十名集まった。遠く関西支部から宗實二郎、慶子夫妻、東京から車椅子の浅野孝一夫妻も駆けつけ、山梨支部・長沢洋会員の愛娘、溪ちゃんも加わっていた。

残念だったのは、毎回この懇親会のホスト役を続けてきた山村正光会員が突然の病で欠席、支部役員が慣れのため十分な心配りができず、寂しい思いをされた方もいらしたのではないかと思う。

前夜祭はこの集いの名物料理を今年も堀口、今井会員が腕をふるい、イワナの骨酒、ヤマメの塩焼き、コシアブラ、タラの芽、ヨモギなどの山菜の天ぷらがテーブル狭しと並んだ。

古屋支部長の歓迎の挨拶に続き河西理事は、木暮翁が若いころ両親から二十円小遣いをもらい(明治二十年代)、使い切るまで山行を続けたなど「山の憶ひ出」にはない裏話を披



若葉が美しい金山平の木暮翁碑前で

露。また最長老の浅野孝一会員が、目下木暮翁の伝記を執筆中で、いずれ会報「山」に発表したいと元氣のあるところを見せ、懇談会を盛り上げた。

碑前祭は二十七日朝、小雨の煙る中で行われた。支部の菊島会員が献酒をたつぷり捧げ、神、仏事ではないからと中尾評議員の音頭で、古屋支部長差し入れのワインで乾杯。森評議員の記念講話は、秩父多摩甲斐国立公園の名称変更問題で「甲斐」が加わるまでの経緯、さらに、日本山岳会に関係ある碑として、埼玉県の三峰山から雲取山への稜線、地蔵峠の先に「秩父宮」のレリーフがあるからぜひ訪れてほしい、と話された。

記念山行は天気不安定で降雨の懸念もあって予定を変更。五月二十

日に天皇、皇后両陛下をお迎えして行われた「全国植樹祭」会場(瑞牆山麓)を見学し、須玉町営「増富の湯」でラジウム温泉につかり、昼食後再会を約して解散した。

追伸・大勢の方々から差し入れをいただき、また山村会員を励ます温かい寄せ書きをありがとうございました。(坂本 桂)

越後支部

室賀新支部長選出と平成十三年度事業計画

一、支部総会 五月十二日(土)

山形県小国町泡ノ湯温泉三好荘参加者二十九名、委任状による委任者百四十九名、計百七十八名。

新支部長に室賀輝男氏を選出した。

二、懇親登山 五月十三日(日)

倉手山(九五二メートル)登山は雲ひとつない快晴に恵まれ、残雪に輝く雄大な飯豊連峰の眺めが感動的であった。

三、高頭祭(第四十四回) 七月二十五日(水) 弥彦山大平園地午後三時集合。

*事前の参加申し込みは不要。

四、支部晩餐会(第十二回) 十二月八日(土) 新潟東映ホテル(越後の

サロンとして開催)。

五、「五十嵐基金」(百万円)について 故五十嵐篤雄前支部長夫人より寄付された基金の有効な活用方法についてご意見ご要望がありましたら支部事務局までお寄せください。

信濃支部

好天に恵まれて第五十五回ウェストン祭

一八九一年(明治二十四年)、ウェストンが徳本峠を越えて上高地に入ってから今年で百十年。幾度かの變遷を経て一九四七年(昭和二十二年)今の場所にレリーフが建立され、その復旧を記念して行われた祭典が第一回ウェストン祭、数えて五十五回を迎えることとなった。「上高地開山祭」が春を告げる祭典なら、さしずめ「ウェストン祭」は夏の開山祭と位置付けられて、定着することになった。

六月二日、例年にない雪の多さに四苦八苦した昨年に比べ、道も整備され、天候にも恵まれて、七百五十名近い記録的な人たちに、峠越えを楽しんでもらうことができたことは感激であった。

二、三人の連れと行き交う人の全くない熊笹をかき分けて歩いた百年前のウェストンの姿を想像すると、

その探検心に頭が下がる思いである。ウェストン祭が安曇村の年中行事の一つに数えられる感もあるとはいえ、早朝より湯茶の接待をしてくださる地元婦人会の皆さん、学校行事として記念山行に参加されている百六十名の安曇小中学校の生徒、父兄の皆さんには、改めて感謝、感謝である。

六月三日、緑のまばゆい中、大塚会長をはじめ多数の来賓と広場いっぱい参加者が集い、盛大に碑前祭が行われた。一連のセレモニーのうち、近藤信行会員の「山のたのしみ、山の文化」と題して行われた記念講演は、短い制約された時間の中で気

の毒であったが、ウェストンと先人たちの関係を交えた興味深いお話であった。

いつも思う。幾多の受難の歴史の跡を残して今があることに、事実の重大さを再認識しなければならぬし、たかがウェストン祭と思うとき、過去の足跡を振り返れば「軽んずべからずウェストン祭」と。

一時間余の式典終了。安曇小学校四年生十一名の歌声、エーデルワイスのハーモニが来年、またこの広場に響くことだろう。

今年も安全で楽しい山登りであつてほしいと願う。この地球に感謝。(実行委員長・中野和郎)

新ハイキング選書

第4巻 改定第2版 一等三角点のすべて

多摩雪雄 編 B6判・350頁・定価1995円(税込)
都道府県別に一等三角点を地図上に明示。一等三角点の詳細な解説、一等三角点研究の決定版。

第9巻 第3刷 一等三角点の名山100

B6判・336頁・定価1632円(税込)
100山すべてコース図と写真入りで実用性が高い。

第18巻 改定第2版 一等三角点の名山と秘境

A5判・340頁・定価1837円(税込)
全国一等三角点の地方別の配置図と全国の一等三角点の総覧が付いている。一等の山100座を紹介。地図が大きく見易い。

第20巻 一等三角点の山々

A5判・310頁・定価1680円(税込)
一等三角点の山シリーズ。280山の総索引と高度順一等三角点100座が付いている。80座を紹介。

第9巻、第18巻、第20巻のガイドの山は重複しません。

新ハイキングの見本誌はハガキで申し込めば無料で送付します。

新ハイキング社 〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13
電話・FAX 03(3915)8110

東西南北



イラスト・宇都木慎一

今年の長い総会の後に

大森弘一郎

今回は長い総会であり、そのあとにいろいろな疑問が参会者の心に残りました。その第一は、日本山岳会のあるように対する疑問であり、手続きに対する疑問だろうと思います。決定したことに従い協力するのが山の掟ですから、今後われわれはこの決定に沿って活動すべきですが、そのためにも疑問の中身を晴らしておく必要があります。

日本山岳会には定款と、定款には表しきれないものが伝統となつて生きていて、これにより発展運用されています。この中で会として何が正しいのか、その理解の幅が今回の長い総会を生んだのだと思います。

総会は会長・副会長や理事・監事を選ぶ場所ですが(定款一四一条一、二項)、その前に重要事項は評議員の意見を聞かねば(定款三二条)とあ

ります。これでは「聞いて従う」のか「聞くだけ」なのかはつきりしません。これをどう解釈してどう運用していくかが伝統だと思います。二年前に大塚会長が選出された評議員会の場合には私も居りました。ここでは「聞いて従う」というルールによつて進んでいましたし、その後、自分は一期をやるよ、と大塚会長が言われていたことにより、今回の評議員会の決定がされたと思います。

これはルールであり伝統だと思つていましたが、今回は「聞くだけ」の形になりました。定款にある矛盾のどちらが会のルールなのか、決めておく必要を感じます。私は今回の評議員会が出した案に手を上げた者ではありますが、この曖昧さは慎重に討議してはつきりさせておいた方がよいと感じます。

普通の組織の場合、総会の出席者による議決の場合、利害関係人の票は無効です。JACの定款にそのことは書かれていないのですが、もし

通念どおりだとすると、会長に白紙委任された委任状も、今回の評議員会を否決するのに関しては無効であったこととなります。今回は採決の前に、白紙委任状は有効である、と議長から言われました。この場合数千枚の白紙委任があれば答は明らかです。それにより採決の方向が決められた可能性が残ります。同じ答になるにしても、委任状は無効とし、このとき議長を他の人に換えて進めた方が今後の信任に問題を残さないで済みました。

定款の言葉も伝統も所詮は曖昧なものです。これを運用するのは人であり、それが将来の伝統を作ります。今回は一つの解釈で進められました。これをさらに進めると会長公選制になるでしょう。私はそのような会ではないと思いますが、これも一つの方向です。人をよく知る執行部が理事会までの範囲で結論を作つて総会に諮る従来の方式を定着させるのか、これを変えて会員による公選制に近づけるのか。今後の会の性格にかかわることを、会員皆で考えねばならない時であろうと考えます。

今回はいずれにせよ、決定されたことは決定されたことであります。その中で会員全てが次の発展に協力して会をより立てるべきですが、この次の総会までの与えられた猶予期

間に、正しい会の判断基準を固めておくことが必要だと考えます。

大山の標高が低くなった

山陰支部・小椋凱夫

中国地方の最高峰で、深田久弥氏の『日本百名山』にも選ばれている大山(鳥取県西伯郡大山町ほか)の標高が、国土地理院により五月三十日付で一七〇九・四メートルに修正された。同峰は、昨年十月六日の鳥取県西部地震により三角点(三等・弥山)の標石が地盤ごと北側にずり落ちたため、国土地理院は東に約八メートル移動させて設置し直し、改めて計測したもの。

同峰はこの地震以前から崩壊がひどく、この三角点の標高は一七二三メートルだったが、一九六一年計測し直しの結果一七二〇・六二メートルとなり、今回さらに一・二メートル低くなった。

実は大山の最高地点は別にあり、三角点から尾根続きに約七〇〇メートル東の「剣ヶ峰」で、標高点は一七二九メートルとされている。しかしこの付近も近年特に崩壊がひどくて、事実上この地点に立つのは不可能。三角点付近も狭いため、通常は少し手前的大山頂上避難小屋のある

「一帯を「頂上」と呼び習わしている。

深田久弥さんとの平ヶ岳

桜井昭吉

平ヶ岳は昭和に入っても遠い山であった。初登頂の記録は大正四年(一九一六)七月、高頭式氏が白沢から登られたが、自宅を出てから尾瀬ヶ原まで七日かかっている。その五年後の大正九年七月に木暮理太郎氏と藤島敏男氏が大水上山から県境稜線を平ヶ岳を経て尾瀬ヶ原に下った。同じ七月には慶応の宮川久雄氏も富永重太郎を伴っての中ノ岐川を遡って頂上に立った。このとき三田幸夫



俳句

高尾の森

小林碧郎

日雀啼き高枝の芽苞こぼしくる
樵芽吹く空の眞青に小げら打つ
破れ傘群れさしかくる日みずの屍
山雀や枯いろに榛咲きそめし
夕月に躰呼びあへり孔雀羊歯

氏は宮川氏と中ノ岐川で別れて、木賊峠の登りで平ヶ岳を振り返り、数日前まで登頂の希望を持っていたため後ろ髪引かれる思いで檜枝岐に越えて行った。

尾瀬にゆかりの深い武田久吉博士にとつても、平ヶ岳は念頭にあったが登る機会を逸していた。晩年福島山の山仲間の計らいでへりて訪れ、会報三五二号に遺稿「平ヶ岳瞥見記」を載せている。このように多くの岳人にとり、平ヶ岳は昭和四十年まで門戸が開かれた山ではなく、残雪期県境稜線縦走による登頂記録は乏しい。あるが、谷筋からの記録は乏しい。深田さんが平ヶ岳を日本百名山に取り上げようと登ったのが昭和三十七年であるが、この間、他の山々は登山道の整備が進んだのに、平ヶ岳は初登頂以来四十六年経っても高頭氏が登った時とほとんど変わっていない。深田久弥さんと大正九年に登っている藤島敏男さんと私を含めた一行五人は、九月十五日枝折峠をバスで越え、伝之助小屋の船で中ノ岐川に着き、その日は二岐川合流点のゼンマイ小屋で第一屋を過ごした。翌朝水量の多い中ノ岐川の徒渉に始まり二岐川の遡行から、午後三時ころ滝の連続する沢を避けて藪の尾根に取り付いた。その夜は尾根の途中にか

ろうじてテントを張って第二夜を過ごした。

三日目はヤマグルマ、シャクナゲ、クロベなどの猛烈な藪と、二メートルを超すチシマザサをかき分けて、ようやく池塘の美しい池ノ岳に着いた。さらに頂上の三角点まで笹とオオシラビソをくぐり、午後遅くなつて平ヶ岳の頂上に着いた。

広大な山頂のチングルマ、キンコウカなどの草原や池塘には踏み跡や塵一つなく、尾瀬の燧ヶ岳、至仏山や奥日光の山々から上越国境、南会津の山々の展望をほしいままにして、三日間の疲れは吹き飛んでしまった。翌日も水長沢を目指して藪の尾根

から、さらに滝の連続する沢を下り、ようやくモリブデン鉱山跡に着いた。ここからはかすかな踏み跡を頼りに水長沢右岸の高巻きや崩落跡を通過しながら、利根の源流大水上山から流れくるシツケイガマワシ沢合流点の無人小屋で第四夜を過ごした。翌日はさらに奈良沢川を右に見ながら八木沢ダム工事の伐採が始まった中を通り抜け、夕方になって須田貝のバス停に着いた。

深田百名山にこのような登山道のない山があったことを知る人は少ない。日本百名山に情熱を燃やした深田さんの意気込みをうかがい知ることができよう。

6,000m以上の1,215峰を全て所収 世界初の精密登山地図 完成!!

宮森常雄 著 (ヒンズークシュ・カラコルム研究会)

カラコルム・ヒンズークシュ
Mountaineering Maps
of the KARAKORUM
& HINDU-KUSH
by Tsuneo Miyamori
登山地図 B全判地図13葉

(付)カラコルム・ヒンズークシュ山岳研究(宮森常雄 共著)

A4変型判・上製美装ケース入 385ページ

特価30,000円(税別)〈7月31日締切〉定価33,000円(税別)

国内外の多くの登山家・探検家による最新情報を刻み込んだ世界で最も詳しい登山地図がついに完成! 全て経緯度を位置付け、既登峰・未登峰を明示。氷河地帯の知りうる限りの情報も満載。別冊山岳研究では貴重なパノラマ写真に高度と山名を添えて掲載。現地言語による地名山名研究と併せてヒマラヤ全域の知識を提供する。

ナカニシヤ出版

〒606-8316 京都市左京区吉田二本松町2
Tel. 075-751-1211 Fax. 075-751-2665
URL <http://www.nakanishiya.co.jp/>

海外の山

河野兵市の
「一步の勇氣大賞」

江本嘉伸



「リーチング・ホーム」の歌を河野兵市に捧げる 7月1日江本撮影

七月一日、松山市で「河野兵市さんとお別れ会」が開かれた。

「リーチング・ホーム」と名付けた、北極点から故郷の愛媛県瀬戸町まで六年がかりの徒歩の旅。北極点から六〇〇キロ歩き五月十七日消息を絶ち、二十四日陸地(ワードハント島)まであと八五キロというところで、遺体となって発見された。四十三歳だった。会場には、櫓を曳いて北極点から一步を踏み出した河野の姿が、高さ三メートルに引き伸ばされて飾られ、河野が講演で訪ねた小学校の生徒たちがメッセージを読み上げた。

九七年に「日本人初の北極点徒歩ソロ到達」をやったために、「北極男」のイメージが強いが、河野兵市は稀に見る奔放な、くくりかたの難しい行動者だった。

瀬戸町のみかん農家に生まれ、高校には一七キロの道を自転車通学した。大阪に就職したが、一年でやめて日本を自転車一周(二六〇〇〇キロを走行)したのが二十一歳の時。

一九八一年二月には日本を飛び出し、アラスカ・ユーコン川のイカダ下りを手はじめに、マッキンリーに登り、ロスからニューヨークまで米大陸を百八十日かけて徒歩で横断し、ボストン、ニューヨーク、ホノルルの三大マラソンを完走した。

その後もチチカカ湖でのアシ舟航海、パタゴニアの高緯度湿原徒歩踏破、カラカスからフエゴ島まで自転車での南米大陸中央部縦断、とあらゆる行動手段で旅を続けるが、その中でも山への情熱は並みではなかった。

登山のきっかけは、日本山岳会会員でもある村岡由貴夫の手ほどきでマッキンリーを目指したことだった。ニューヨークでキッチン・ヘルパーのアルバイトをしていた時で、毎日砂袋を背負って店まで歩き、昼休みはセントラルパークをレンガをもって走った。

無事マッキンリーに登ってから登山意欲に火がつき、メキシコのポボ

カテペトロ(五四五二メートル)、オリサバ(五七〇〇メートル)、エクアドルのコトパクス(五八九六メートル)、アコンカグア(六九六〇メートル)と五、六千メートル級の高峰に登りまくる。

ペルーのワスカラン(六七六八メートル)に登った時、日本から来ていた登山家の玉田仁と知り合い、カラコルム・ヒマラヤの難峰・ナンガパルバットに行く約束をする。八七年七月、そのナンガパルバットで氷のブロックを受け、あごを二十七針縫う怪我を負った。下山して治療を受け、もう一度アタックに戻ったというからすごい執念だ。

しかし、結局は思うように動けず再度下山することになって、わあわあ、子どものように泣いた、と居合わせたベイス・マネージャーは証言している。それだけ一年間未知の八千メートル峰に向けて心を集中させ、トレイニングを積んでいたらしい。

ちなみに、この時河野を手当てしたマネージャーがのちの順子夫人である。

その年の十月、七年ぶりに日本に帰った。翌年には日本列島を徒歩で縦断、ソ連(当時)のコルジュエフスカヤ(七一〇〇メートル) コミニユズム(七四九五メートル)にも登った。九〇年にはサハラ沙漠五千キロをリヤカー「クスクス・エクस्प

レス号」を曳いて単独徒歩縦断(百二十九日)がかりだった、北極に目を向けるのは、この頃である。

筆者は仲間たちと「地平線会議」という活動を、一九七九年以来続けている。いい地球体験をした行動者たちの足跡を皆に伝えたい、という思いからで、日本に帰った河野にもそんなわけで何かと会うことが多かった。会ってみて、飾らない、無名人人との出会いを大事にする、そしてユーモアのセンスに溢れたその人柄がわかった。

冒険なんていうすごいことではないです、「初めてのお使い」ってあるでしょう？私のやつることって、あれと同じですよ、と河野はよく口にした。三歳ぐらいの幼児が母親に頼まれて初めてひとりでお使いに出る。その有様をカメラがそつと追うというテレビの人気番組。こどものドキドキするような初心になぞらえて自分の好奇心にあふれる地球体験のことを言ったのだらう。

また「一步を踏み出す勇氣の大事さ」をよく口にした。これは、世界に飛び出さなくとも身近なことである、とも。

そういう河野兵市の心を活かそう、と河野兵市記念委員会が発足「一步の勇氣大賞」を実施することがこの日発表された。詳しくは十月、あらためて公表することだ。

報告

7月

三水区

韓国シリーズ第四回
頭陀山、太白山、北漢山山行

今年も花と溪谷美を求めて韓国に出かけた。二〇〇一年四月二十八日、U A便で仁川国際空港に十一時過ぎに到着。乾、高、金の三氏に迎えられ、チャーターバスに乗り江原道の東海市へ。空港を出ると海上に高速道路ができています。

嶺東高速道を走り、大関嶺、江陵市を経て東海市のホテル着。ホテルの正面に「歓迎・日本山岳会三水区一行」の幕が飾ってあったのに、またびつくりした。



12名が参加した4回目の韓国山行

四月二十九日、本日の目的は頭陀山（一三三三メートル）である。バスで登山口の武陵溪谷入口の商店街まで行き、山火事予防のため入山規制があるので、溪谷の管理事務所の許可を取り、入山料を支払って溪谷道に入る。すぐに三和寺があり、左

岸から右岸の道になると、左に頭陀山に直接登る指導標がある。見送って進むとパクトルゴルを経て頭陀山へ行く道が分岐する。さらに、パルンゴルへと直進すると、四段の滝を持つヨンチュポクポに突き当たる。落ち口にかかる橋を渡って少し登り、滝の上部を眺め、パクトルゴルの入口に戻り、双瀑とパクトル瀑布の左を巻き、右股を横切ってパクトルジエ（鞍部）へ突き上げる尾根を登り、パクトルジェから左へ一時間ほど行くと頭陀山の頂上に出た。ここは展望が素晴らしい。パクトルゴルの本流である左股は、美しい滑滝が五〇

メートル、一〇〇メートルと次々に連続しているが、時間がなくて行けなかった。

四月三十日、東海から南下して太白市へ行き、江原道と慶尚北道の境界にある太白山に登った。この山（一五六〇メートル）は檀君伝説の地で、天孫降臨の天祭壇が頂上に築かれている。

三十一号線のチョンギリ入山口で高

い入山料を払い、登り始めて二、三十分経つと、道の両側にカタクリが咲いていた。一時間ほどで分岐点のパンジェに着き、少し登るとカタクリの大群落に出会った。斜面全体にびっしりと咲いている。

頂上直下の望景寺に出ると、ガスが湧き、風も強くなり、寒い。展望はきかず、帰路はパンジェから右へタンゴルに下山した。後はソウルへ一直線に向かった。

五月一日、道峰山の予定を北漢山に変更し、高陽市の紙紐洞へ地下鉄で行き、食堂の車に便乗して中城門の近くまで行った。今日はお釈迦様の生誕祭に休日が重なり、人が多い。北漢山城溪谷に沿って登って行くと、チンダルレが咲き、黄色のスミレが目立つ。寺も次々に現れ、仏教の盛んなことを思わせる。普賢峰と文殊峰の中間の大南門まで登って打ち止めとした。

夜は打ち上げで、韓国のいつもお世話になるお二人に感謝して、今回の山行を終わった。五月二日帰国。参加者十二名。（石田稔郎）

92同期会

第十三回山行 丹沢・鍋割山

別に遠出をしなくとも山には四季それぞれに味わいがあるものだが、

東京・神奈川地区などに住む者にとり最もポピュラーであるはずの丹沢にも、じっくり観察すると思ってもよ

らぬ魅力を発見するものだ。五月十二日、合計十二名のメンバーが大倉・二俣経由で丹沢・鍋割山（二七三三メートル）に登ったときには、雲ひとつない天候が後ろ盾にな

ってくれて、目覚めたばかりの山の芽吹きに触れることができ、参加者一同その幸運を喜びあった。丹沢にはもともと広葉樹が豊富に残され、さまざまな樹種がこの時期になると一斉に芽吹き、もえぎ色の樹林帯を形成するものだ。固い外皮を割ったばかりの新芽や、既に十分

ワインを直輸入しています

主にフランスはブルゴーニュのワインを中心に輸入しています。こだわりの無名ドメースを発掘!! 今、ワイン界に新風を送っています。SO2の少ないピュアなおいしいワインを、毎年フランスに行きドメースから直接買いつけています。素晴らしいおいしさです。ぜひお試しください。全国発送いたします。ホームページをご覧ください。

<http://www.winedou.co.jp/>

トップコンテンツのマキノレポートは山とワインのレポートです。メールマガジンもよろしく。

マキノ酒店有限会社 牧野 菊生
(会員8299番)

千葉県印旛郡富里町日吉台5-10-7
TEL: 0476-93-2200
FAX: 0476-93-7548

●日本ソムリエ協会関東支部ワインアドバイザーコンクール入賞 ●フランス食品振興協会(ソバクサ)認定コンセイエ(小売店のソムリエ) ●ワイン総合研究所公認名誉ワインマスター

に若葉を広げたものなどさまざまな春の表情がそこかしこにうかがわれ、それらが出す固有の香りが訪れる者をやわらかく包み込んでくれたのであった。

登山道を少しはずれると山藤の太い蔓に交じって山葡萄が芽を吹いているのがあちこちに望まれ、ここに住む動物たちは秋の訪れをことのほか待ち遠しく思っているのではないかと想像されたのである。

山頂から少し下ったところには展望のきく草原があり、ここに立つと眼下に房総半島を俯瞰することができ、空気の澄んだ今日のような天候ではすみずみまで見晴らすことが可能で、折りからの大島桜の花びらの舞い落ちる下で、心行くまでそれらの景色を堪能することができたのも幸運であった。

(沼田俊雄)

資料委員会

ミニテントの奇贈

一九五六年の日本山岳会によるマナスル登頂は戦後登山の金字塔であった。その登頂時の赤いアタックテントのミニチュアを、吉田テントよりご寄贈いただきました。貴重な作品は大切に保管し、多くの会員に鑑賞していただきたいと思います。

(鯉坂青青)

図書紹介



イラスト 蜂谷益雄

大石一博・金子昌彦・廣澤和嘉・山梨忠男・共著／西畑武・監修

『静岡市の山』

静岡市山岳連盟は今年四月創立五十周年を迎え、記念誌『明日も山に登る』を発行した。本書はその編集委員の有志四人が、記念誌に盛り込めなかった資料や国土地理院の二万五千分の一の地図をもとに、二人一組で市最高峰の間ノ岳(三一八九・三メートル、わが国第四位)から南の有度山(三〇七・二メートル、日本平)まで二年がかりで市内の登山路全コースを歩いてまとめたものである。

本書は、静岡市が市内の山の数は八四座、福島県の只見町一〇二に次いで全国第二の山岳都市であることに着目、「山を通して静岡市を紹介し

よう」ということを目指したもので、単なるガイドブックではない。本書は十章で構成されているが、その中で特にユニークなのは「市街地の山(日本平・谷津山など)」までも掲載していることである。

執筆代表の廣澤和嘉氏は本会会員。主な内容は登山コースの現状、山名の由来、それに地図に記載されていない山名や峠の発掘、歴史、伝説、随想などが随所にちりばめられ、地方色豊かなものになっており、類書に例を見ない静岡市研究の好個の資料もあり、必見に値する。(小倉 厚)

二〇〇一年四月発行 二九〇ページ 私家版(申し込み先四二二八〇〇六 静岡市曲金五・七・六 廣澤和嘉 四〇五四・二八一・四 七五四 頒布価格二千円+送料三百円)

河村正之・著

『山書散策』

埋もれた山の名著を発掘する

本書の内容を一口で言えば、古書を中心としたブック・ガイドブックということになる。が、そういうと普通想像する、通り一遍の山岳名著紹介やマニアックな山書道楽本とは大いに性格を異にする。そのあたりを著者は、「資金乏しきを視点と

専門講師同行による本格的な植物探索ツアー

夏のブータン・ヒマラヤ

セイタカダイオウを求めて12日間

■発着地:東京・大阪・名古屋・福岡 ■期間:8/21(水)~9/1(土) ■¥598,000

ヒンドークシュ、カラコルム、ヒマラヤを行く

異教徒の谷カフィリスタンからシャンドール峠とナンガルバット・メルヘンの草原15日間

■発着地:東京(成田) ■期間:9/21(金)~10/5(金) ■¥358,000



国土交通大臣登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F

TEL 105-0003 FAX 06-6444-3033 名古屋 TEL 052-581-3211 福岡 TEL 092-715-1557

センスで補い、豪華限定本を文庫本や古書店頭の特価均一本で代用し、古典的岳人の代わりに埋もれた山屋を発掘・称揚する「ゲリラ的山書随筆」と述べている。

しかし、評者の目には、このゲリラ的山書随筆には、従来の「山の本の本」にはあまり見られなかった、オーストリア的な知識人の批評眼があると映った。山書の海の中から真実を感じさせる、本当の山好きのセンスと、山屋らしからぬ知性が光る好著である。

(福島功夫)

二〇〇一年三月 東京新聞出版局 発行 二九四ページ 千五百円

Sanken life

小鳥の美声に囲まれて

山研管理人 木村太郎・弥生

早いもので私たちがこの「さんけんだより」を書かせていただくようになって4シーズン目を迎えます。

そんな私たちを、上高地は温かく迎えてくれました。文字どおりの温かい春であり、特に今年は多くの小鳥たちが山研を訪れ、美声で楽しませてくれました。でもそれはどうやら梓川の向こう岸、小梨平にあるビジターセンターの新築工事が原因の

ようです。

もともと小鳥の棲家は山研よりも小梨平周辺のほうが多いのですが、工事の騒々しさに参ってしまった小鳥たちが山研周辺に逃げ込んできたようです。鳥たちにとっては迷惑な話でしょうが、私たちにはなかなか見ることのなかった鳥たちの美しい姿と囀りを、思いがけず堪能することができました。

小鳥とは対照的に、今年はほとんど姿を見せないのがサルです。地元の方の話によると、雪解けが早く、山に美味しい食べ物がたくさんあるからではないか、ということでした。6月には必ず姿を見せ、テラスのテーブルに陣取って山研脇のハルニレ

の種を食べていた、山研の本当の主？がいないのは少し寂しい気がします。山で美味しい餌にありついているというのは、サルの食生活も上高地の山も、健全であることの表れなのかもしれません。

これからがよいよ本格的な夏山登山の時期。穂高や槍ヶ岳に多くの登山者が訪れます。そんな方々にとって、上高地は通過点になりがちですが、初夏の爽やかさに包まれた上高地で、山行の余韻に浸りながらのんびり過ごされてはいかがでしょうか。

今年も上高地・山研で、たくさんの方とお会いできることを楽しみにしています。

図書受入報告 (2001年5月)

著 者	書 名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈／購入別
桑原豊(編)	とかげ:東京理科大学Ⅱ部山岳部50周年記念特集号	110pp/26cm	東京理科大Ⅱ部山岳部	2001	発行者寄贈
金光康資	防長山野へのいざない(第3集)	406pp/26cm	金光康資(私家版)	2001	著者寄贈
鷲春夫	なぜ山に登るのか	252pp/20cm	文芸社	1999	著者寄贈
庄田元男	日本アルプスの発見:両洋文化の交流	434PP/22cm	茗溪堂	2001	発行人寄贈
鹿野勝彦	シェルパ ヒマラヤ高地民族の20世紀	286PP/21cm	茗溪堂	2001	出版社寄贈
赤沼淳夫	燕岳と安曇野(赤沼淳夫写真集):四季の心象	107pp/25cm	東京新聞出版局	2001	出版社寄贈
平野勝	多摩川をいく	194pp/19cm	東京新聞出版局	2001	出版社寄贈
江本嘉伸	江本骨蜜大魔境外伝	70pp/30cm	開拓義団エモの友会	2001	著者寄贈
佐藤俊正	あきた滝300:フォトガイド名瀑紀行	152pp/26cm	秋田魁新報社	2000	佐々木民秀氏寄贈
佐々木民秀(編)	韓国雪嶺山・五臺山親善登山報告書(1999.5/19-5/24)	80pp/26cm	日本山岳会秋田支部	2000	発行者寄贈
佐々木民秀・鈴木要三(編)	秋田県の山(分県登山ガイド No.4)	111pp/21cm	山と溪谷社	2000	編者寄贈
早稲田大学岳友会(編)	ALPINE FORUM(No.5):ペルー・ツァー特集	209PP/26cm	早稲田大学岳友会	2001	発行者寄贈
大阪大学山岳会(編)	サンゲマルマル報告書 1984	102pp/26cm	大阪大学山岳会	1986	発行者寄贈
宮森常雄	カラコルム・ヒンズークシュ登山地図(13枚折畳地図)	37cm	ナカニシヤ出版	2001	出版社寄贈
宮森常雄・雁部貞夫(編著)	カラコルム・ヒンズークシュ山岳研究	371PP/31cm	ナカニシヤ出版	2001	出版社寄贈
堀川虎男(編)	奥武蔵山歩き一周トレール	175pp/22cm	かもがわ出版	2001	出版社寄贈
白川義員	世界百名山:白川義員作品集[第1巻]	175pp/43cm	小学館	2001	著者寄贈
デナリ国立公園登山レンジャー	登山 デナリ国立公園および保護地区	60pp/21cm	Alaska Natural History Association	1994	大蔵喜福氏寄贈

会務報告

五月理事会

日時 五月九日(水) 十八時三十分
二十時四十分

場所 日本山岳会会議室

〔出席者〕 大塚会長、小倉、大森、竹内各副会長、西村、村井(龍)、宮崎、高原、村井(葵)、宮下、河西、松原、坂井、勝山各理事、中村監事、中川、吉永、田邊各常任評議員
〔委任〕 森、増山、鰐坂、坂本、高遠各理事、神崎監事、平野、平山各常任評議員

〔審議事項〕

一、新支部長の選任(西村)

次の三支部より新支部長選任の届け出があった。

秋田支部 佐々木民秀(五七四八)

宮城支部 千田 早苗(七二二一)

京都支部 横田 明男(六八四八)

(承認)

〔報告事項〕

一、評議員会報告(中川)

四月二十六日開催された評議員会において、別紙のとおり副会長以外の理事、監事候補者が決まった。副会長候補については、調整中である。二、次期評議員候補者の選任について(大塚会長)

四月二十五日の臨時理事会において、会長一任となっていた鰐坂候補については、本人の意思確認をとり、候補者とした。

三、ディペンドラ・ネパール国皇太子殿下歓迎行事について(西村)

同皇太子は、四月二十五日より五月二日まで日本に滞在された。当会は、二十八日夕刻に歓迎パーティーを国際文化会館で会員、関係者約八十人出席のもと開催した。二十九日からの京都、関西地区では、京都支部を中心にさらに盛大に歓迎会を開催し、ネパールとの友好を図った。

四、上野松坂屋における「山岳写真展」開催の後援について(西村)

同好会「アルパインフォトビデオクラブ」より、後援依頼があり承諾した。開催期間は五月三十一日より六月六日まで、作品は昨年の年次晩餐会で展示した「二〇〇〇年記念山岳写真展」より四十点を厳選。

五、「山岳」記事転載許可願いにについて(西村)

千葉大学学士山岳会より、「五十周年記念誌」発行にあたり、「山岳」第八一年(一九八六年)ブータン・ヒマラヤ、ナムシラ峰の初登頂他二点の記事について転載許可願があり承諾した。

六、山岳遭難保険の代理店の変更にについて(西村)

平成十三年四月一日より、現行の「新都市住販(株)」より、兄弟会社「新都市リビング(株)」へ変更した。連絡先は〇三・五八二一・二二〇〇

七、委員会報告

財務委員会・村井(龍)

月次会計報告があった。その他、図書室のカードケースが不要となつたので処分したいとの希望が述べられ、最終判断を図書担当理事に委ねることとする。

総務委員会・高原

支部長会議を十九日、十時三十分より開催する。また今回は前夜、懇談会を設けコミュニケーションを図りたい。

会報委員会・村井(葵)

「山」四月号は、「三つのヒマラヤ登山計画(ローチェ南壁 東海支部)」「ガツシャーブルム」「II峰 明治大学」「サンルン峰 日本大学」(会員アンケート報告)等が主な特集記事。

自然保護委員会・河西

高尾の森「植樹祭」を四月十五日に行い、二百七十名の参加があった。広葉樹を中心に二十種、千本の苗木を植えた。

アルバータ二〇〇〇プロジェクト・大森副会長

報告書を刊行した。総会には配布できる。

八、その他

今月で退任する役員、常任評議員よりそれぞれ挨拶があった。

五月臨時理事会

日時 五月三十一日(木) 十八時三十分
二十時四十分

場所 日本山岳会会議室

〔出席者〕 大塚会長、芳賀、長尾、村井各副会長、西村、今村、坂井、高原、朴元、高遠、宮下、鈴木、黒川、大野、藤本、河西、松原、鳥居、小川各理事、内田、古市各監事、平林、宮崎、宇田川、鰐坂各常任評議員

〔委任〕 中村理事

◎会議に先立ち、出席者全員の自己紹介があり、大塚会長より以下のとおり挨拶があった。

「二年前会長就任時、日本山岳会の役員はクラブサーバントだと言った。それはこれからも変わらない。

創立百周年を迎えようとする当会は、体質的にも伝統をもっている。

だが、昭和十六年社団法人となつて以来、当時千二、三百人だった会員数はコンスタントに増え、ここ十から十五年で、年齢構成等大きく変化して、中高年齢層の比率が高くなつた。また会員数は、ここ数年六千人で停滞している。以上の状況を踏まえ、ええとうええいろいろな角度からこれからについて考えていきたい。

意思決定の最高機関は総会で、次が理事会だ。よって、理事会の決定事項は最も重視しなければならぬ。理事会はメンバーの自由な考えと発想のもとにやっていたい。しかし、社団法人としての公益性は、世間から厳しい目で見られていることも念頭におかなければならない。

今期の取り組み課題として、一つは、定款、細則の改正、そしてあと一つは、中国の山に登る、である」

【審議事項】

一、会長に事故がある時の副会長の代行順序について(大塚会長)

一位長尾副会長、二位村井副会長、三位芳賀副会長とする。(承認)

二、常務理事と担当委員会委嘱について(大塚会長)

西村政晃、今村千秋、坂井広志に常務理事を委嘱する。

村井 龍一(財務)

西村 政晃(総務)

今村 千秋(会報編集)

坂井 広志(高所登山研究)

高原 三平(総務)

朴元 鐘徳(集会)

高遠 宏(山岳編集、百年史)

宮下 啓三(図書)

鈴木 敬吾(資料、フィルムビデオ)

黒川 恵(指導、遭難対策)

大野 秀樹(医療)

中村 保(海外)

藤本 慶光(科学)

河西瑛一郎(自然保護)

松原 尚之(青年部)

鳥居 和雄(学生部)

小川 武(山研運営)

の各理事に委嘱とする。(承認)

三、常任評議員の委嘱(大塚会長)

五月十九日、評議員が集まり互選された平林、宮崎、宇田川、鯉坂各評議員に常任評議員を委嘱。(承認)

四、戦略的な課題の一部担務について(大塚会長)

以下の通り一部担務をお願いする。

①秩父宮記念山岳賞 長尾副会長

②海外登山基金助成 村井副会長

③百周年記念事業企画プロジェクト・リーダー 平林常任評議員

④長期改善計画策定プロジェクト・リーダー 西村常務理事(会のあるべき姿について検討する)

⑤『新日本山岳誌』高原理事

⑥ミニ水力発電 小川理事(ミニ水力発電小委員会小委員長を兼務、委員は森評議員他数名) (承認)

五、定例理事会開催日等(西村)

定例理事会開催日は原則として、第二水曜日十八時三十分からとする。

(八月は休み)

常務理事会はその前日に開催する。

メンバーは常務理事三名と財務担当の村井副会長とする。ただし、重要案件のある場合は、会長、副会長も

出席する。基本的な役割は議題の整理とし、審議、討議は理事会とする。各理事の理事会への議題、資料の提出は、理事会開催日の前の週の土曜日までに、事務局へ。(承認)

【報告事項】

一、理事、監事、評議員の任務について(西村)

社団法人の「理事」、「監事」、「評議員」の任務及びそれぞれの機関の民法上の意義と当会における役割の特徴と課題について説明した。各理事の担当業務は明確化されているが、それ以外の課題についても、大いに意見を出してもらいたい旨の要請があった。

二、予算執行(村井副会長)

先の総会の予算枠内で運用をはかりたい。仮払いは、少なくとも二、三日前までに手続きをとってもらいたい。現金を渡す人は担当理事とする。不在の場合は、事前に決められた代理人に限る。

三、委員会名の変更について(中村・事前に文書により提出)

「海外連絡委員会」を「海外委員会」とする。

四、各委員会名簿の提出(西村)

平成十三年度、十四年度用の役員委員会名簿作成につき、六月三十日まで、別紙様式にて提出してもらいたい。

北アルプス白馬連峰

ゆっくりとした登山をお楽しみください。

素泊り、山行中の継続駐車もできます。最寄駅、登山口など、送迎します。

スケッチ、写真撮影など四季折々の白馬の名所をご案内いたします。

宿泊料金(1泊2食): 9500円

格安コース: 7500円より

和牛料理の宿



ひまわり

長野県北安曇郡白馬村神城22114-17

TEL (0261) 75-2292(代)

FAX (0261) 75-3284

総合カタログ(180P)完成! ご請求ください(無料)

憧れの海外の名峰登山!

・6/3	雪岳山縦走	3日間
・6/9	キナバル山登山	5日間
・7/7	カタ・フェアビュー山登山	9日間
・7/7-8/7	大姑娘山登山	9日間
・8/17	真白山(白馬山)登山	7日間
・7/15-8/5	カムチャッカ・アバチ山登山	8日間

★その他にも多数コースがございます

北海道・人気の2コース

・利尻山と礼文島花ハイク	4日間
6/15-6/20・6/22-6/29・7/6-7/15	5日間
・羅臼岳と斜里岳と釧路岳	4日間
7/12-7/15・8/2-8/23・9/22	5日間

オリジナルプランOK

お見積もり・資料請求等、お気軽にお問合せ下さい。

アムーストラベル株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1-22-2 新宿サンエビル B1

TEL 03(5325)1256 FAX 03(5325)1258

大塚	06(6456)3366	名古屋	052(588)5617
広島	082(502)2525	福岡	092(414)5566

五、『きりぎりす』三号の刊行(松原) 標記、青年部より刊行した。(別添配布)

六、「高尾の森づくり」(河西)

作業日程が毎月第二土曜日、午前九時よりと決まった。来月は九日予定。(資料配布)

七、理事会議事録について(西村)

高原が作成、西村が校閲し、当月二十五日くらいまでに理事会メンバーの他、評議員、支部長に発送する。訂正等があれば、当月内に総務担当まで連絡してもらいたい。

■会員異動

物故

尾藤 昭二(四二九九) 01・3・19
岩瀬 一美(九六六五) 01・3・21
吉武 玲子(九五一八) 01・5・11
石井 貞吉(三五二五) 01・5・17
早津 邦俊(二九七八) 01・5・17
生田 浩(六六五六) 01・5・28
退会

渡辺 良一(四八六二)
蟹江 健一(五五八二)
東京電機大学二部山岳部(六〇五五)
佐々木健二(五四八八)
安藤 昌宜(六六三〇)
ウェイグリフィス(六九七八)
樋口 敬二(七七四九)
斎藤 義晴(八一五三)
岩下 光男(九四一四)

渡部智俱人(九五五七)

町井 且昌(二〇四一三)
春山 政衛(二〇四二七)
小田 和美(二〇七二〇)
伊藤 主税(二〇八三〇)
大澤 勇(二〇八四二)
小林 春男(二〇九七七)
須藤 悟(二一一二二)
新井知恵子(二一一四二)
南 康雄(二一四四九)
三嶋 隆英(二一五六五)
久保田百雄(二一六〇五)
関口 信行(二一六五八)
伊東 守(二二〇八〇)
行廣 学(二二八六六)
徳倉 廣治(二二二〇二)
内山 和男(二二九〇六)
原田 充司(二三〇六〇)
終身会員
樋口 清明(四四八三)
中島 啓(五一一一五)
赤井 一隆(五一二六)
飯島 正敏(五一三八)
酒井 工夫(五二二七)
熊田 宗次(五二二二)

ルーム日誌

5月
1日 アルパインスケッチクラブ
7日 総務委員会 自然保護委員会

(高尾の森づくり) 山岳地理クラブ 97同期会

8日 二火会 アルパインスケッチクラブ

9日 理事会 会報編集委員会 99

同期会 ジャック23会

10日 臨時評議員会 アルパインフ

ォトビデオクラブ 学生部

14日 アルパインスキークラブ 山

げらの会

15日 百年史委員会 アルパインス

ケッチクラブ

16日 山研運営委員会 インターネ

ット小委員会 三水会

17日 青年部 科学委員会 アルパ

インフォトビデオクラブ

18日 総務委員会 資料委員会 山

の自然学研究会

21日 図書委員会 資料委員会 総

務委員会

22日 自然保護委員会 95同期会

00同期会 アルパインスキー

クラブ

23日 フィルムビデオ委員会 アル

パインスキークラブ 97同期

会

24日 学生部 98同期会 山の自然

学研究会

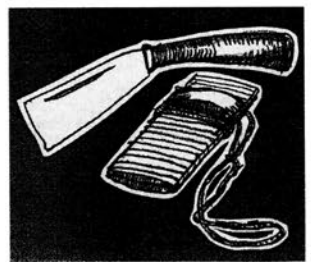
25日 青年部

30日 山の自然学研究会

31日 臨時理事会

5月来室者 580名

INFORMATION



イラスト・宇都木慎一

◆ビールパーティー開催

恒例のビールパーティーです。ビールを飲み、楽しいひと時をすごしましょう。呑み放題。持ち込み歓迎。日時 九月一日(土)十七時十九時

場所 日本山岳会ルーム

会費 二千元

申込みは、八月二十三日(木)までに、Tel・fax・メールで、事務局へ。

◆二〇〇一年度自然保護全国集会

自然保護委員会

関西支部の協力を得て、奈良県の大台ヶ原で開催します。

日程 十月六日(土)七日(日)

六日 午前九時大和上市駅前集合

大台ヶ原研修

七日 集会「大台ヶ原に学ぶ」

十三時解散

会場 村営「ホテル杉の湯」

費用 一万五千元

申込 川越尚子宛(〒一八五・〇〇 一一国分寺市本多三・七・三

◆「森の勉強会」を開催します

東海・岐阜・関西・京都四支部

自然保護委員会共催

自然は私たちに豊かな何物かを与えてくれます。山と木と人を結ぶ総合的な生態系を理解し、自然保護意識を高めるための学習と野外実習。

日程 十月二十七日(土)～二十八日(日)
二十七日 森林学の講義後現地実習
二十八日 京大演習林(芦生の森)などを歩きます。

講師 森の研修者およびインストラクター

集合 十月二十六日(金)夜現地

場所 「朝日の森」研修所 滋賀県朽木村

定員 五十名(四支部以外は五名)

費用 二万円(二泊五食) 交通費は各自負担

交通 JR湖西線安曇川駅から車で

会員名簿改定

変更のある方は事務局へ

総務委員会

「会員名簿2001年版」を作成します。1999年版の記載事項(住所・電話・所属支部など)を変更する必要がある方で、事務局に通知されていない方は、お知らせください。受付は本年10月1日(月)限りとします。

また、新入会員で、届出の住所・電話などが変更されている方も、事務局へお知らせください。

(名簿作成委員)

三十分またはマイカー
申込 八月末日までにハガキかファックスに会員番号、氏名、住所、年齢を明記し、野村誠人宛(〒六二一・八〇七二京都府西京区桂木ノ下町三八・一)fax〇七五・二五五・〇二二二に。

*申込者には詳細案内を送付します。
◆アルプス山岳館特別企画展

資料・フィルムビデオ委員会

今年松本市で開催される世界岳都市会議の関連イベントとして、アルプス山岳館では「山と環境」をメインテーマにした絵画と写真の展覧会、また科学的な眼で山を見詰める二つの研究プロジェクトの展示と講演会を、夏から秋にかけて行います。当委員会ではこの企画展に協力し展示作業を進めています。ぜひご来場ください。

夏の特別展

会期 七月七日(土)～八月八日(水)

①山岳名画展(足立源一郎・茨木猪之吉)

②空撮写真展(北アルプスを翔ぶ)

③北アルプスの近代登山の歴史

④自然エネルギー発電の活用展示

⑤マッキンリー気象観測プロジェクトの展示

秋の特別展

会期 十月七日(日)～二十八日(日)

①茨木猪之吉山岳絵画未発表名品展

②山岳写真展(特別出品・皇太子殿下、橋本龍太郎元総理他)

③北アルプスの近代登山の歴史

④自然エネルギー発電の活用展示

⑤マッキンリー気象観測プロジェクトの展示

⑥マッキンリー気象観測プロジェクトの講演会 十月十九日(金) 場所・Mウイング 講師・大蔵喜福

◆齋藤清の世界展

大町山岳博物館創立五十周年特別企画として、白と黒を基調とした独特の世界・齋藤清の絵画、オブジェなど約四十点を展示します。

会期 八月四日(土)～十月十四日(日)

九時～十七時

会場 大町山岳博物館

観覧料 大人・四百円 高校生・三百円 小中学生・二百円

◆編集後記◆

五月の総会で会報担当に就任いたしました。山岳会のルームには、これまで様々な場面で出入りしていましたが、百周年を間もなく迎える「日本山岳会」の会報担当となり、若干緊張しております。当面は慣らし運転の予定ですが、登山者の高年齢化が常にメディアで取り上げられる中で、山岳会も同様です。少しでも「会報」の中で、若者の活動を伝え、若返りの助けになればと考えております。

全国の会員の皆さまには、引き続き原稿、イラスト、などのご協力をお願いいたします。原稿の締め切りは前月の十日ですが、原稿整理の都合上、早めに左記にお送りください。

宛先 今村千秋(〒一九四・〇〇三二町田市本町八三・四)

TEL & Fax 〇四二・七二二・一六六

e-mail jac-kaiho@jac.or.jp

日本山岳会会報 山 674号

2001年(平成13年)7月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4

サンビュウハイツ四番町

TEL 東京(03)3261-4433

FAX 東京(03)3261-4441

ホームページ: <http://www.jac.or.jp>

Eメール: jac-info@jac.or.jp

発行者 大塚博美

編集人 今村千秋

印刷 株式会社 双陽社